第三條ニ付

日本國ニ於テ其ノ領域ニ輸入セラルル商品ガ稅率上ノ利益ヲ享有スル爲ニハ輸出國ヨリ直接ニ來ルコトヲ要求スルコトアルヘキ場合ニハ乙表ニ列記セラルル印度支那商品ハ第二條ニ規定セラルル利益ニ該當スル利益ヲ享有スルモノトス

第七條ニ付

佛蘭西國政府ハ議會ノ承諾及共和國大統領ノ批准アル迄本協定ヲ第七條ニ從ヒ定メラルル日ニ於テ暫定的ニ施行シ得ルコトヲ宣言ス

附屬宣言

本議定書ニ署名スルニ當リ佛蘭西國政府ハ現在印度支那ニ於テハ海運事業ノ所得又ハ收益ニ對スル課稅ノ存セサルコトヲ宣言ス

此ノ種ノ課稅カ印度支那ニ於テ設ケラルヘキ場合ニハ右ニ關シ日本國ノ事業ニシテ其ノ船舶カ印度支那ノ港ニ到ルモノニ適用セラルル制度ハ右事項ニ關シ佛蘭西領域ニ於テ當時日本國ノ事業ニ適用セラルヘキ制度タルヘシ相互的利益ハ印度支那ノ港ニ於テ登錄セラルル佛蘭西國船舶ニシテ日本國、其ノ屬地又ハ其ノ管治スル地域ノ港ニ到ルモノニ許與セラルルコトヲ要ス

尙同五月一三日右通商協定の署名に當り、兩締約國の全權委員の間に左の內容を有する公文の交換があつた。

即ち（一）佛蘭西國政府は、日本國產品にして印度支那に輸入さるゝ品目中、左記揭示のものゝみに對しては

從價一割五分の率の爲替差額補償附加稅を適用するか、其他に對しては右附加稅を賦課せざるべきこと

稅番八五乾性ノ又ハ潰シテ乾シタル果實

稅番三一一ノ內甲表ニ揭ケラルル化粧品（署名議定書ノ規定ヲ留保ス）

稅番三四七ノA及Bノ內極東常用型以外ノ磁器

稅番三四七ノ四食卓用…（中略）…磁器ニシテ「ニツケル」鍍金シタル普通金屬ノ部分ヲ有スルモノ…（後略）

稅番四五九ノ內甲表ニ揭ケラルル絹布帛

稅番四六一ノ內甲表ニ揭ケラルル紙

稅番五八九煙火（爆竹ヲ含ム）

稅番五九〇及五九〇ノ二甲表ニ揭ケラルル曲木製家具

稅番六二〇ノ內甲表ニ揭ケラルルタイヤー及チューヴ

但し、前記絹布帛に關しては、最低稅率として課せらるる徵收額及び本協定施行の際實施せらるゝ爲替補償附加稅として爲さるゝ徵收額との合計が、一般稅率に於て要求せらるべき稅を超過することゝなりし場合に於ては、淸算は一般稅率を基礎として行はるべきものとす。

五月一三日現在に於て存する日本及印度支那間の爲替の差額が、將來減少し又は消滅することある場合に於ては、補償附加稅は適宜改正せられ又は廢止せらるゝものとす。

若し佛蘭西國政府にして、右補償附加稅の廢止を企圖することあるべき場合に於ては、印度支那關稅定率表

第四五九番中或種の絹布帛が課せらるゝことゝなつてゐる紋織又は捺染の附加稅（註―爲替差額補償附加稅に非ず）に關し、五月一三日附の協定に於て締約せられたる制度の變更を決定する爲、佛蘭西國政府は日本國政府と商議を開始することを要す。

五月一三日現在に於て存する爲替の差額が、將來增大することある場合に於ては、佛蘭西國政府は、其の法令に從ひ、前記日本國產品に對する補償附加稅の率を適宜增加し得る權能を留保す。尙右政府は必要ありたる場合に於て右增加に相當する補償附加稅を、印度支那に輸入せらるゝ他の日本國產品の全部又は一部に、新に適用するの權能を留保す。補償附加稅適用の基準となるべき印度支那貨ピアストルの價值は、一九三〇年五月三一日の命令第一條に定められたるものとす（註ピアストルの價值を佛貨十法と公定す）。

（二）若しピアストル貨にして價值下落することあるべき場合に於ては、日本國政府は、印度支那に輸入せらるゝ日本國產品に對する佛蘭西國政府が適用すべき前記の措置に倣ひ、相互的に右印度支那貨の價值下落の結果を補償するが如き措置を執るの權能を留保すること。

（三）五月一三日附の協定の締結に到達せる商議中、關稅定率表第三四七番のA及Bに編入せられたる磁器に對する稅率に對しては、先に同品目に關し佛蘭西國に於て變更せられたる一九三二年一月九日の法律を以て制定されたる新稅率を、印度支那に於て適用するの問題は留保すること。但し右法律の規定を日本國製磁器に對して、歐羅巴に於て一般に使用せられず、且つ極東常用型の磁器なる名稱の下に同日附の協定に示さるゝものに及ぼすことは佛蘭西國政府の意嚮に非ず。

（南洋年鑑第三回版による）

佛領印度支那鑛業法

千九百十二年一月二十六日制定、千百十二年四月二十一日公布ノ佛領印度支那鑛山ニ關スル大統領令（千九百十三年十二月二十四日附、千九百十六年一月八日附及千九百十八年七月二十八日附大統領令參照）

第一章　總　則
第二章　試　掘　許　可
第三章　試掘許可ノ制定後付與セラルル採掘許可
第四章　公競賣ニ依リ付與セラルル採掘許可
第五章　採掘權者及試掘權者ノ權利及義務
第六章　裁判及罰則
第七章　暫定規定
第八章　雜　則

第一章　總　則

附錄

第一條　鑛物天然鑛床ハ法規ノ定ムルトコロニ從ヒ鑛山（mines）及石坑（carriéres）ニ分類ス

第二條　建築用材及土地耕作用材ノ鑛床及其他同類ノモノニシテ硝酸鹽並ニ燐酸鹽ノ如キ合成鹽ヲ除キタルモノノ鑛床ハ石坑ト見做ス

石坑ハ土地所有權ト分離シ難キモノト見做シソノ規定ニ從フ
石坑ノ採掘ハ地表ノ安全維持及從業者ノ保安確保ノ爲總督令ヲ以テ定メラレタル規定ニ從フ
泥炭坑ハ石坑ト同一法規ニ從フ

第三條　石坑中ニ分類セラレサル鑛物鑛床ハ總テ鑛山トス
鑛山採掘權ハ第二章ニ則リ付與セラレタル試掘獨占許可ノ設定後本令第三章ニ定メラレタル形式ニ從ヒ許可セラレタル鑛區若クハ第四章ニ定メラレタル規定ニ從ヒ實施セラレタル競賣ニ基キ許可セラレタル鑛區ニ據ルニ非レハ取得シ得ス

第四條　（一九二八年八月三十一日附大統領令ヲ以テ修正）
鑛區ハ許可地域全面積ニ亙リ深度ヲ問ハス存在スル被許可物貨（substance concessible）ニ及フモノトス上記第一條、第二條及第三條ノ規定ノ例外トシテ椀掛法砂金採取（l'orpaillage á la batée）ハ官有地ニ屬セル河川ニ對シテハ土地所有者ノ承認ヲ留保シ右河川河床内ニ於テ目由トス、但シ鑛區内ニ所在スル河川ニ於ケル砂金採取ハ禁止ス

第五條　採掘權者（concessionnaire）又ハ試掘權者（permissionnaire）ハソノ鑛山事業並ニ右ニ附屬スル業務ノ爲鑛山採掘又ハ試掘ノ業務カ伐木ヲ避ケ難キ場合是等非認可物ヲ處分スル權利ヲ有ス

第六條　鑛物又ハ鑛床ノ法則上ノ分類ニ付異議アル場合ニ於テハ鑛山局長ノ申告ニ基キ總督之ヲ裁定ス

第七條　鑛山試掘ノ許可ハ不可分ノ不動產權（droit immobilier, indivisible）ヲ構成ス、但シ擔保ニ供スル

コトヲ得ス
採掘ノ許可ハ本令ノ規定ノ制限内ニ於テ他ノ總テノ不動產所有權ト同シク處分、移轉ヲ爲シ得ル（disponible, transmissible）無期限ノ不動產タル（perpetuelle, immobilière）土地所有權ヲ構成ス

第八條　總テ個人又ハ會社ハソノ國籍ヲ問ハス一又ハ數多ノ試掘權ヲ取得スルヲ得
鑛山採掘權ノ所有者（propriétaires）、占有者（possesseurs）又ハ採掘人（exploitants）ハ佛蘭西國民（sujets français）又ハ佛蘭西保護領民（protégés français）タルコトヲ要シ或ハ佛蘭西ノ法律ニ基キ設定セラレ且ツ本社ヲ佛蘭西又ハ佛蘭西領植民地内ニ有シソノ取締役ノ過半數カ佛蘭西國民又ハ佛蘭西保護領民タル會社タルコトヲ要ス

第九條　鑛山ノ試掘及試掘許可ニ關スル民事上及裁判上ノ行爲（Actes civils et judiciaires）ハ不動產所有權ニ付キ現行法ニヨリ定メラレタル規定ニ從ヒ財產狀態（situation des biens）ヲ登錄局（bureau des hypothèques）ニ登記又ハ記錄セラルルニ非サレハ法律上ノ效力ヲ有スルコトナシ
試掘許可又ハ採掘許可ニ關スル權利ノ移轉ハ鑛山局長ニ屆出（déclarer）ヲ爲スヲ要ス
右屆出ハ新タナル試掘權者又ハ採掘權者ノ國籍、人格及法律上ノ地位等ニ關シ該移轉ノ爲メ有效ナル總テノ條件ヲ備フルコトヲ要シ又採掘權ノ賃貸權ノ賃貸モ總テ右ト同一ノ屆出ヲナスコトヲ要ス
試掘權者又ハ採掘權者ニシテ移轉又ハ賃貸ノ屆出ヲ怠リタルモノハ本令違反ノ責ヲ負フモノニシテ新採掘權

者又ハ賃借人ハソノ責ヲ負フコトナシ

第十條　總テ試掘ノ屆出（declaration）採掘又ハ之カ拋棄ノ出願（demande）右出願ニ對スル異議、移轉又ハ賃貸ノ屆出ニハ州内又ハ地方行政主都（鑛山ノ所在スル管轄區内ノ知事又ハ理事長官ノ駐在地）ニ當事者ノ選定シタル假住所（domicile élu）ヲ指定スルコトヲ要ス

上記ノ者ニ對シ右假住所ニ於テナサレタル本令ノ適用ニ關スル行政上ノ告示（notification administratif）、採掘又ハ之カ拋棄ノ出願並ニ右出願ニ對スル第三者ニ依ル訴訟書類（Actesde procédure）ノ送達ハ有效ナルモノトス

右假住所無キ場合ニ於テハ告示調書（procès-verbal des notifications administratifs）ヲ作製シ又第三者ノ名ヲ以テ送達スル送達證書（exploits d'huissier）ノ檢證（viser）スヘキ州長官ニ對シソノ官廳ニ於テナサレタル告示又ハ送達ヲ以テ有效ナルモノトス

第十一條　鑛山ノ試掘又ハ採掘ヲ目的トシテ設立セラレタル會社ハソノ定款ノ雛型及取締役名簿ヲ鑛山局長ニ提出スルコトヲ要ス、定款及取締役名簿ノ變更モ亦總テ鑛山局長ニ依リ認知（connaissance）セラルルコトヲ要ス

右ノ會社並ニ試掘權又ハ採掘權ヲ共同的ニ（collectivement）所有スル個人ハ植民地ニ於ケルソノ代表者名ヲ州長官及鑛山局長ニ依リ認知セラルルコトヲ要ス

第十二條　本令ノ實施ニ關シ政府ニ對シ提出スル申請書（requêtes）ハ總テ佛蘭西語ヲ以テ記載セラレ佛蘭西

文字又ハ土地ノ慣用文字ヲ以テ署名セラルルコトヲ要ス

第十三條　鑛山局、工務局、關稅局、林野局、民政部及民兵隊（garde indigène）ノ官吏、囑託及雇員ハ植民地鑛山ノ試掘又ハ採掘ニ直接又ハ間接ニ從事スルコトヲ得ス、右禁制ハ軍政管區ニ於ケル軍官吏、軍囑託及軍雇員又ハ前記ト同類ノ官吏並ニ右裁判所管區内ニ於ケル土人官吏ニ對シテモ適用ス

第二章　試掘許可

第十四條　試掘許可（permis de recherche）ハ州長官ニ提出セル屆出ノ先着者ニ對シ下付ス、右許可ハ各邊ノ長サ三粁且ツ正南北及正東西ノ方向ニ定メタル正方形ヲ以テ限定セル地域内ニ於ケル試掘獨占權ヲ認ムルモノトス

第十五條　試掘許可ニ依リ區劃ノ限定セラレタル正方形カ既ニ下付セラレタル試掘許可ノ地域又ハ試掘許可ニ基キ設定セラレタル採掘許可ノ地域ト重複スル場合ニ於テハ試掘被許可者ノ權利ハ後者ノ試掘又ハ採掘カ實施中ナル限リ臨時（provisoirement）縮少セラレ、後者ノ試掘又ハ採掘ニ含マルル地域ト重複セサル正方形ノ部分ニノミ及フモノトス

右正方形カ競賣ノタメ留保セラレタル又ハ第八十四條ヲ以テ試掘ヲ禁止セラレタル地域ト重複スル場合ニ於テハ試掘被許可者ノ權利ハ右留保又ハ禁止カ存續スル限リ同シク縮少セシメラルルモノトス

第十六條　試掘許可ノ下附ハ鑛山局長ノ申告ニ基キ總督令ヲ以テ定メラレタル規定ニ從ヒソノ屆出ニ先立チ豫メ國庫ニ對シ固定稅（droit fixé）百法ヲ納付スルコトヲ要ス

右固定稅ハ一定地方ニ於テハ鑛山局長ノ申告ニ基キ總督府會議常置委員會ニ於テ採決セラレタル總督令ヲ以テ增額スルコトヲ得、但シ右金額ハ五百法ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　試掘許可ノ屆出ハ州主都ノ官廳ニ於テ州長官又ハソノ代表者ニ對シ提出スルコトヲ要ス

郵送ニ依ル屆出ハ認メス

右ノ屆出ハ左ヲ明記スルコトヲ要ス

一、姓名、身分、國籍及屆出人ノ住所又ハ會社ノ場合ニ於テハソノ名稱及本社所在地

二、第十條ニ規定セル選定假住所

三、試掘地域ノ中心位置

屆出ニハ左ヲ添附スルコトヲ要ス

一、地域ノ中心ノ地理的位置ヲ指示スル要圖

二、正北ニ方位ヲ定メタル土地ノ見取圖又ハ略圖ニシテソノ地域ヲ容易ニ識別シ得ヘキ顯著ニシテ且ツ不變ノ地點ニ對シ符號ヲ附シタル地域ノ中心位置ヲ示スヘキモノ

要圖及見取圖又ハ略圖ハ屆出人ノ署名ヲ要シ、各試掘地域ニ對シ明瞭ナル表示ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條　州長官ハ屆出ノ當日ソノ提出ノ順序ニ從ヒソノ屆出ヲ特別ノ登錄簿（registre）ニ登錄ス、右登錄簿ハ總テ希望者ニ對シ公開セラルルモノトス、提出ノ順序ハ優先權（priorité）ヲ確定ス

州長官ハ各屆出ニ對シ屆出ノ日附及屆出錄順番號ヲ記載セル受領證（récépissé）ヲ交付ス、右受領證ハ試掘

許可書ニ相當ス

右受領證ハ前記第十六條ニ規定セル固定稅百法ノ納付濟ノ證明ナキ屆出ノ場合ヲ除キ拒否セラルルコトナシ其他如何ナル場合ニ於テモ受領證ハ合法ノ屆出ナル限リ交付セラレ、右屆出ニ對シ異議アル場合ニ於テハ裁判所之ヲ判定ス

第十九條　一試掘許可ニ對スル徵收稅額カ百法ヲ超ユル地方ニ於ケル屆出ニ對シテハ州長官ハソノ許可ニ付キ負擔スヘキ附加稅（droit complémentaire）ノ納付命令ヲ屆出人ニ送達ス、右ノ金額ハ州收稅官吏又ハ右ノ委任セル官吏ニ對シ十五日以內ニ納付スルコトヲ要シ且ツ右ニ對スル拂濟證書（ugitance du versement）ハ受領證（récépissé）ヲ交付スヘキ州長官ニ提出スルモノトス

納付命令ノ送達後一箇月ヲ過キテ拂濟證書ヲ提出セサル場合ニ於テハ右試掘屆出ハ當然無效トス、右ノ無效ハ試掘屆出登錄簿（registre des declaration）ニ記載ス

第二十條　總テ數州ニ跨ル試掘許可ハソノ屆出ノ行ハレタル州ニ所在スル地域ニ限リ有效ニシテ且ツ屆出ノ行ハルル每ニ夫々納稅ヲ爲スコトヲ要ス

同一地域ニ對スル屆出カ各州ニ於テ夫々三箇月以內ニ提出セラレタル場合ニ於テハ政府ハ納稅額ノ一部ノ減免ヲ認可スルヲ得

第二十一條　屆出人ハ屆出後一箇月以內ニ正方形ノ中心ヲ標識ヲ以テ地上ニ明確ニ表示スルコトヲ要ス、右標識ハ試掘試可權者ノ姓名、屆出ノ日附及同標識ノ設定セラレタル日附ヲ記載スルモノトス

右ノ標識及記載ハ試掘許可全期間中明確ナル狀態ニ維持スルコトヲ要シ試掘權者ハ地上ノ標識ノ位置ヲ州長官又ハ鑛山局長ノ任命セル總テノ官吏ニ對シ指示スルコトヲ要ス

第二十二條　試掘許可ハ屆出ノ日ヨリ起算シ三箇年間有效トス

第二十三條　試掘試掘許可ノ受益者（bénéficiaire）ハソノ業務ニ依リ得タル産出物ニシテ許可セラレタルモノニ付キテハ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十四條　州長官ハソノ屆出ヲ受理シ受領證ヲ交付シタル試掘許可ニ對シ爲サレタル權利拋棄ニ付キテハ之ヲ特別ノ登錄簿ニ登錄ス

試掘許可カ拋棄セラレタル土地ハ試掘許可ノ受益者カ合法的ニ行ヒタル權利拋棄ノ登錄ノ翌日ヨリ右試掘許可ニ基ク總テノ權利ヨリ免除セラル

第三章　試掘許可設定後付與セラルル採掘許可

第二十五條　總テ試掘許可ハソノ期限ヲ過キサル限リ採掘許可ヲ取得スヘキ權利ヲ付與ス

出願セラルル採掘許可ノ面積ハ九百「エクタール」ヲ超過シ又ハ百「エクタール」未滿タルコトヲ得ス

出願セラルル區域ハ各邊カ正南北及正東西ノ方向ニ定メ且ツ小邊カ大邊ノ四分ノ一以下ナラサル長方形タルコトヲ要ス、右區域ハ試掘許可ノ正方形內ニ總テ含マルルコトヲ要ス

第二十六條　採掘許可ノ出願ハソノ準備セル試掘許可ノ有效期限滿了以前、州主都ノ官廳ニ於テ州長官又ハソノ代表者ニ對シ提出スルコトヲ要ス

郵送ニ依ル出願ハ認メス

採掘許可カ數州ニ亘ル場合ニ於テハ關係各州ニ對シ夫々出願ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　採掘許可ノ出願ハソノ出願ノ提出ニ先立チ豫メ國庫ニ對シ固定稅五百法ヲ納付スルコトヲ要ス

採掘許可カ數州ニ跨ル場合ニ於テハ國庫ニ對スル單一ナル納付アルヲ以テ足ル

第二十八條　採掘許可ノ出願ハ左ヲ明記スヘシ

一、姓名、身分、國籍及出願人ノ住所、又會社ノ場合ニ於テハソノ名稱及本社所在地並ニ第十條規定ノ選定假住所

二、出願カ準據ス可キ試掘許可並ニ必要ナル場合ニ於テハ出願人カ原試掘被許可者ニ代位スルニ付キ準據ス可キ權原

三、出願地域ノ明確ナル境界

以上出願ノ補足トシテ出願人ハ左ヲ提出スルコトヲ要ス

一、正北ニ方位ヲ定メ固定且ツ顯著ナル地點ヲ以テ長方形ノ位置ヲ極メテ正確ナル方法ヲ以テ指示セル縮尺一萬分ノ一ノ地域見取圖ノ複本二通

二、採掘許可ノ出願カ保存登錄簿（registre de la conservation）ニ登記セラレタルコトヲ證明シ且右出願カ準據セル試掘許可ニ關スル登錄ヲ上記登錄ノ日ニ明記セル登記官吏ノ證明書

第二十九條　州長官ハ出願ノ當日ソノ出願ヲ特別ノ登錄簿ニ登錄ス、右登錄簿ハ總テ希望者ニ對シ公開セラル

ルモノトス

右出願ノ登記ヲ證明セル受領證（récépissé）ハ出願人ニ交付ス、但シ右受領證ハ上記第二十七條規定ノ固定稅五百法ノ拂濟證明書（certificat du versement）提出ナキ場合ニ於テハ交付セラレサルモノトス

第三十條　出願ノ審理特ニ見取圖ノ檢查ニ要スル費用ハ鑛山局長ノ申告ニ基キ總督令ヲ以テ定メタル料率表ニ從ヒ出願人之ヲ負擔ス

第三十一條　州長官ハ出願ノ提出アリタル時ハ直チニ地方行政長官ニ對シ出願錄（dossier de la demande）ヲ移牒ス、地方行政長官ハ鑛山局長ノ申告ヲ採擇セル上出願ノ合法ナルヤ否ヤノ審查、見取圖ノ檢查、必要ナル場合ニ於テハ之カ訂正ヲ行ハシム

採掘出願ノ形式ニシテ合法ト認メス又ハ出願人カ命セラレタル訂正實行ノ期間ヲ過キタルモ要求セラレタル訂正ヲ行ハス、見取圖ニ對シ本章ノ規定ニ適合スルニ必要ナル訂正ヲ行ハス或ハ審理ノ費用ヲ支拂ハサル場合ニ於テハ總督ハ鑛山局長及地方行政長官ノ申告ニ基キ右出願ノ却下ヲ宣ス、右却下ノ宣告ハ出願人ニ通告シ且ツ印度支那官報ニ記載ス

第三十二條　出願カ合法ト認メラレタル場合ニ於テハ地方行政長官ハ調查ノ著手ヲ命ス

出願ハ州長官ノ要求ニ基キ州主都ニ於テ又地方行政長官ノ要求ニ基キ地方行政主都ニ於テ夫々三箇月間公示セラルルモノトス

右出願ハ更ニソノ抜抄ヲ印度支那官報ニ揭載スルモノトス、右揭載ハ調查ノ期間內三回且ツ兩度ノ揭載ノ中

間期間少クトモ十五日ヲ以テ行フモノトス

第三十三條　採掘許可ノ出願ニ對スル異議ノ申立ハ裁判所ノ管轄ニ屬シ左ノ二條件ヲ滿スコトヲ要ス然ラサレハ無效トス

一、異議ノ申立ハ調查期間內ニ採掘許可出願人ニ對シ送達セラル可キ延期ノ送達證書（exploit d'ajournement）ヲ以テ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

二、右送達證書ノ裁判外ノ行爲（acte extrajudiciaire）ニ依ル通告ハ調查終了前少クトモ十五日以內ニ州長官ニ爲スコトヲ要ス

第三十四條　出願記錄ハ調查終了後州長官ノ所見ヲ附シ地方行政長官ニ回付セラレ次テ鑛山局長ニ送達セラレ右局長ノ申告及地方行政長官ノ提案ヲ附記セル上總督ニ申達セラルルモノトス

何等異議申立無クシテ出願人ノ權限（titres）ニ反則無キ場合ニ於テハ總督ハ採掘ノ許可ヲ認定ス

但シ競賣保留セラレタル又ハ試掘ヲ禁止セル地域ト重複セル地域ニ對シテハ採掘ノ許可ハ禁止セラルルモノトス、曩ニ權限ノ確定セル採掘許可書ヲ侵害セル場合又ハ審查ノ結果右採掘許可出願ノ準據トナレル試掘申請ニ準據シテナサレタル採掘許可書ヲ侵害セル場合ニ於テハ右區域ニ對スル採掘許可ハ禁止スルヲ得

第三十三條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ對シ異議ノ申立アル場合ニ於テハ總督ハ裁判所ノ決定アル迄認定ヲ延期ス

出願人ノ權限（titre）ニ反則ヲ認メ且ツ出願人カ命セラレタル訂正實行ノ期間內ニ要求サレタル訂正ヲ行ハサル場合ニ於テハ總督ハ右出願ノ却下ヲ宣ス

第三十五條　採掘許可ノ出願ヲ認定シ又ハ却下セル總督ノ決定ハ之ヲ出願人ニ通告シ且ツ印度支那官報ニ掲載ス

採掘許可カ認定セラレタル場合ニ於テハ出願ニ添附セル二通ノ見取圖複本ハ正式ニ證明セラレ、ソノ一ハ採掘權所有者（concessionaire）ニ返付セラレ他ノ一ハ總督ノ決定書ニ添付セラルルモノトス

第三十六條　（一九一三年十二月二十四日附大統領令ヲ以テ修正）上訴期間（délai de recours）ノ滿了又ハ上訴ノ却下（iejet des recours）ニ依リ採掘許可カ確定セル場合ニ於テハ右出願ノ準據トナレル採掘許可ハ當然失效ス

採掘許可ノ權利ノ內容（consistance）ハ採掘許可證書（acte de concession）ニ明記セル制限ニ基キ確定スルモノトス

鑛區ノ一部又ハ全部カ競賣ニ留保セラレタル又ハ試掘ヲ禁止セル地域內ニ或ハ調査實行セラレサル州又ハ鑛山管區（districts miniers）內ニ包含セラレ居ル場合ニ於テモ又ハ鑛區ノ一部ハ全部カ試掘許可地以內ニ所在スル場合ニ於テモ本件ニ關スル採掘許可ノ效力ニ對シテハ何等異議ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

他ノ採掘許可ニ對スル又ハ已テニ實施中ノ試掘許可ニ對スル採掘許可ノ效力ハソノ準據トナレル試掘屆出（déclarations de recherche originaires）ノ先着順ヲ以テ確定ス

確定セル二箇ノ採掘許可カ相互ニ重複シ又ハソノ準據トナレル試掘ノ屆出カ相異レル州又ハ相異レル鑛山管區ニ提出セラレ居ル場合ニ於テハソノ先着順ハ右州又ハ鑛山管區ニ於ケル試掘屆出ノ日附ヲ以テ決定ス、右

日附カ同一ナル場合ニ於テハ總督ノ特別決定ニ基キ右二箇ノ採掘許可ノ關係セル市町村團體（partie commune）ノ裁判上ノ競賣（licitation judiciaire）ヲ以テ決定ス

第三十七條　採掘許可カ試掘許可ニ對スル規定ノ期間滿了後認定セラルル場合ニ於テハ右試掘許可ハ右認定手續ノ行ハルル全期間中尙延期セラルルモノト見做ス

出願人ハ後記第四十八條ニ規定セル鑛區稅（taxe superficiaire）ヲ納付シ臨時ノ資格ヲ以テ（à titre provisoire）採掘ヲ爲スコトヲ得

第四章　公競賣ニ依リ付與セラルル採掘許可

第三十八條　鑛山局長ノ申告及地方行政長官ノ提案ニ基キ總督府會議常置委員會ニ於テ決定セル總督令ヲ以テ指定セラレタル地方ニ於ケル鑛山ハ曩ニ採掘許可及試掘許可ニ依リ取得セラレタル權利ヲ留保シ公競賣ノ手續ニ依ルニ非サレハ取得スルヲ得ス

第三十九條　公競賣ニ附セラルル地域ニ所在スル鑛山地域（terrains miniers）ハ總テ競賣ニ先立チ地表ニ境界ヲ設定シ且ツ標識ヲ以テ爲サレタル地區（lots）ニ分割ス

地區分割（lotissement）ハ之カ總見取圖及各地區ノ見取圖ノ作製セラルルモノトス、政府ハ競賣ノ時期ヲ選定シ且ツ分割地區ニ對シ政府カ最モ適當ト認メタル限界及面積ヲ指定スルノ權限ヲ有ス

第四十條　競賣ハ總督又ハソノ代表者立會ノ下ニ行フ

第四十一條　政府ハ總テノ競賣ニ先タチ申込アリタル分割地區ニ對シ略式指定（designation sommaire）ヲ公

表旦ツ掲示ス

佛蘭西共和國官報及印度支那官報ニ依ル公表並ニ植民省、總督府、地方行政主都及鑛山ノ所在スル所轄州ニ於ケル掲示ハ競賣實施ニ先立ツコト少クトモ三箇月以前タルコトヲ要ス

第四十二條　競賣ニ參加セントスル競買人ハ競賣實施地ニ住所ヲ選定シ旦ツ總督決定ヲ以テ定メラレタル保證金拂濟證書（quittance du versement d'un cautionnement）ヲ提出スルコトヲ要ス

右保證金ハ競賣實施アリタル後ニ於テ競落セサリシ入札人（soumissionaires évincés）ニ對シ返付セラレ又後記第四十四條ニ規定セル第一年度鑛區稅（première annuité de la redevance）ノ納付アリタル後ニ於テ落札人（adjudicataire）ニ對シ返付セラルルモノトス

第四十三條　（一九三一年五月二十九日附大統領令ヲ以テ廢止ス）

第四十四條　落札人ハ自己ニナサレタル通告ノ日ヨリ三箇月以內ニ競落確定金額（somme fixe）及自己ノ申出タル第一年度鑛區稅ヲ納付スルコトヲ要ス、然ラサレハ當然ソノ權利ヲ喪失シ旦ツ爾後ノ新競賣ニ參加スルヲ得ス、採掘許可證及證明濟見取圖ハ右納付アリタル後落札人ニ對シ交付ス

落札人ハ一旦發表セラレタル面積ノ誤謬ニ付キテハ政府ニ對シ如何ナル求償モ爲スコトヲ得ス

但シ納付スヘキ金額ハ認メラレタル誤謬ノ割合ニ應シテ減少セラルルモノトス

第五章　採掘權者及試掘權者ノ權利及義務

第一節　總則

第四十五條　總テ採掘權ハ分割賣却、部分賃貸又ハ物的共有（partagée materiellement）ヲナスコトヲ得ス本條ノ規定ニ反シ爲サレタル賣却、部分賃貸又ハ共有ハ後記第四十九條ノ規定ヲ以テ宣セラルヘキ採掘許可ノ失權（déchéance）ヲ生スルモノトス

第四十六條　採掘權者ハ左ノ規定ニ基キソノ採掘權ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スルコトヲ得

右拋棄ノ出願ハ州長官ニ提出スルモノトス、右ノ出願ハ採掘許可カ保存登記簿（registres de la conservation）ニ登記セラレタルコトヲ證明シ旦ツ右採掘許可ニ必要ナリシ記錄ヲ上記ノ登記ノ日ニ於テ明記セル登記官吏ノ證明書ヲ添付スルヲ要ス

部分拋棄ノ場合ニ於テハ右出願ハ原鑛區區域及削除セラルヘキ部分ヲ記入セル見取圖ヲ添付スルヲ要ス、修正後ノ鑛區區域ハ長方形ニシテ旦最少限百「エクタール」ノ面積ヲ有スルコトヲ要ス、但シ本規定ハ採掘權者カ他ノ鑛區內ニ包含セラルル地域ヲ自己ノ鑛區ヨリ削除スルコトヲ出願スル場合ニ於テハ適用セス

右出願ノ審理ニ要スル費用ハ鑛山局長ノ申告ニ基キ決定セル總督令ニ依リ定メラレタル料率表ニ從ヒ出願人之ヲ負擔ス

右出願ハ必要アル場合ニ於テハ採掘許可ノ出願ニ對シ定メラレタル規定ニ從ヒ三箇月ノ期間ノ調査ヲ行ハルヘク本令第三十二條ノ規定ニ從ヒ右期間內ニ州主都及地方行政主都ニ於テ公示セラレ旦ツソノ拔抄ヲ以テ印度支那官報ニ掲載セラルルモノトス

裁判上又ハ法律上ノ協定ニ依ル先取特權及抵當權（privilèges et hypothèques conventionnelles judiciaires

et légales）ハ右期間内ニ於テ登記セラルルコトヲ要ス、異議ノ申立ハ第三十三條ノ規定ニ從フモノトス

異議ノ申立アル場合ニ於テハ政府ハ裁判所ノ決定アル迄認定ヲ延期ス

異議ノ申立ナキ場合出願人カ採掘權者タル資格ヲ證明シ且ツ調査終了日ニ於テ鑛區ニ關シテ何等登記セラレタル先取特權又ハ抵當權ナキコト若クハ登記セラレタル債權者カソノ抵當權ヲ解除セルコトヲ確認セル登記官吏ノ證明書ヲ提出セル時ニ於テ右出願ハ認可セラルルモノトス

總督ノ決定ハ出願人ニ通達シ且ツ印度支那官報ニ公表ス、拋棄ニ關スル出願カ認可セラレタル場合ニ於テハ總督ハ鑛區ノ放棄セル部分ノ失效ヲ宣スル（annuler）コトヲ得、但シ右ニ依リ權利ヲ害セラルル可キ第三者ハ右決定ニ對シ上訴スルコトヲ得

右上訴期間ノ滿了セル場合又ハ上訴ノ却下セラレタル場合ニ於テハ拋棄セラレタル鑛山區域ハ採掘許可ニ基ク總テノ權利ヨリ免除セラル

總督ハ鑛區ノ失效ヲ即時宣スルニ先立チ之ヲ公競賣ニ附スルコトヲ命ズルコトヲ得

右競賣ハ鑛山局長ノ申告ニ基キ總督府會議常置委員會ニ於テ決定セル總督令ヲ以テ定メタル期日ニ行フモノトス、入札ナキ場合ニ於テハ右鑛區ハ失效ス

第四十七條　鑛區ノ境界設定ハ採掘權者之ヲ要求シ或ハ地方行政長官之ヲ命スルコトヲ得

右實施ハ採掘權者ノ費用ヲ以テ鑛山局長又ハソノ代表者之ヲ行ヒ若クハ之ヲ檢證ス

採掘權者ハ境界規定書（procès-verbal de bornage）ニ記セル境界並ニ採掘許可設定ノ際命セラルヘキ耕地

（plantation）トノ境界ヲ明確ナル狀態ニ維持スルコトヲ要ス

第二節　鑛區稅

第四十八條　（一九三一年五月二十九日附大統領令ヲ以テ廢止）

第四十九條　總テ鑛區稅（redevance superficiaire）ヲ納付セサル採掘權者ハ失權ス

認可セラレタル採掘權者ニ對シ行政法上ノ手續ニ從ヒ（administrativement）通達セラレタル兩度ノ納稅通知書（avertissements）ニ對シ應セス且ツ第二次通告後十五日ヲ過クル時ハ總督ハ失權命令（arrêté de déchéance）ヲ發ス、右ハ上記採掘權者ニ通達シ且ツ印度支那官報ニ公表ス

右ノ場合ニ於テハ上訴期間滿了ト共ニ鑛區ノ競賣ヲ行フ、右鑛區ノ競賣ハ鑛山局長ヲ申告ニ基キ總督府會議常置委員會ニ於テ決定セル總督令ヲ以テ定メラレタル規定ニ從ヒ爲サレタル公表後ニ於テ行フモノトス、採掘權者ハ右競賣實施ノ當日迄ニソノ滯納稅金及失權ノ原因タリシ政府ニ依リ課セラレタル總テノ負擔金ヲ納付スル時ハ失權ノ效力ヲ停止セシムルコトヲ得

競賣ハ最高額ヲ入札セル競賣人ノ利益ニ於テ行政法上ノ手續ニ從ヒ實施ス、失權セル採掘權者ハ競賣ニ參加シ得ス、競賣金額ハ政府ノ立替タル競賣費用及未納鑛區稅（redevances）ヲ控除シタル上失權セル採掘權者ニ返付セラレ若シクハ利害關係人ニ對シ裁判上（judiciairement）配分セラルル爲ニ供託スルモノトス、

採掘許可カ試掘許可認定後採掘許可認定ニ關スル法定期間ヲ經タル上付與セラレタルカ若クハ競賣法ニ基キ競賣ニ依リ認可セラルルノ規定ニ從ヒ付與セラレタル場合ニ於テハ新採掘權者ハ定メラレタル鑛區稅（red-

evance superficiaire annuelle) ヲ政府ニ對シ納付スルコトヲ要ス

入札者一人モ無キ場合ニ於テハ總督ハ鑛區ノ失效ヲ宣シソノ旨印度支那官報ニ揭載スヘキコトヲ命ス、失效ヲ宣セラレタル鑛區地域ハ採掘許可ニ基ク總テノ權利ヨリ免除セラル

第三節　採掘權者ト土地所有權者トノ關係

第五十條　採掘權者ハ後記第五十三條、第五十四條及第五十五條ノ規定ニ從ヒ付與セラルル權利ヲ除キ土地所有權者ノ正式承認ナクシテ園地、中庭、庭園內ノ土地ヲ占有スルコトヲ得ス

坑孔及坑道ハ居住土地所有權者ノ承認ナクシテ右ニ隣接スル圍障地內ニ含マレタル家屋及住所ヨリ五十米以內ノ距離ニ開鑿スルコトヲ得ス

第五十一條　採掘權者ハ墳墓尊崇ニ關スル法律及慣習ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五十二條　鑛區內ニ所在セル官有空地ニ於テハ採掘權者ハ州長官ノ認可ヲ得テ試掘、採掘、鑛ノ機械的處理及可燃物ノ洗滌、溝運河並ニ總テノ交通路ノ設置、並ニ鑛區ノ限界ニ必要ナル境界ノ設置ニ必要ナル土地ヲ無償ニテ占有スルコトヲ得

州長官カ右申請セラレタル認可ヲ承認セサル場合ニ於テハ地方行政長官ハ鑛山局長ノ申告ニ基キ之ヲ裁定ス

第五十三條　上記ノ事由ニ基ク採掘權者ニ必要ナル土地カ既ニ賃貸セラレ又ハ拂下ケラレタル官有地ナルカ又ハ他ノ個人ノ所有ニ屬スル場合ニ於テハ採掘權者ハ利害關係人ニ協議ノ上鑛山局長ノ申告ニ基ク州長官ノ認可ヲ得テ之ヲ占有スルコトヲ得

右ノ占有ハ占有ニ關スル年賦補償金（indemnité annuelle d'occupation）ノ確定後若クハ急ヲ要スル場合ハ裁判所ノ命シタル借地現狀書（état des lieux）ノ證明アリタル後之ヲ爲スヲ得右補償金ハ占有地ノ純收入（revenu net）ノ二倍ト定メラル、右ハ占有ノ各年度ノ當初前以テ納付スルモノトス

占有カ一年以上ニ亙レル場合或ハ右土地カ鑛山事業ノ爲最ニ使用ノ目的ニ適セサルニ至リタル場合ニ於テハ土地所有權者ハ占有以前ニ右土地ノ有シタ價格ノ倍額ヲ以テ之カ取得ヲ採掘權者ニ對シ請求スルヲ得

第五十四條　如何ナル場合モ州長官ニ依リ付與セラルル土地占有ノ權利ハ土地所有權者ノ拒否アルト否トニ拘ラス耕地ニ存在スル沖積土ヲ試掘又ハ採掘スルヲ採掘權者ニ許容スルヲ目的トスル土地ヲ占有權ハ地方行政長官カ鑛山局長ノ申告ニ基キ必要ニ應シ特ニ付與シタル許可又ハ採掘ヲ目的トスル土地ヲ占有權ハ地方行政長官カ鑛山局長ノ申告ニ基キ總テノ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス、右ノ許可アルニ非サレハ取得スルコトヲ得ス

第五十五條　採掘權者ハ自己ノ事業ノ爲土地所有權者ニ對シ與フル場合賠償金ハ生シタル損害ノ價額ニ相當スルコトヲ要ス、協議一致セサル場合ニ於テハ右賠償金ハ裁判所調查ノ上之ヲ決定ス

第五十六條　採掘權者ハ利害關係人ニ協議ノ上鑛山局長ノ申告ニ基ク地方行政長官ノ付與セル許可ヲ得テソノ鑛區々域外ニ於テ鐵道線路ヲ除ク他ノ總テノ交通路並ニ通風、排水及採鑛ノ爲メ坑孔及坑道ノ如キ救助工事（les ouvrages de secours）ヲ實施スルコトヲ得

右ノ工事實施ニ要スル土地占有ニ對シ支拂フヘキ補償金ハ前記第五十三條ノ規定ニ準シ裁判所之ヲ決定ス

第五十七條　總テ採掘權者ハ州長官ノ許可ヲ得テ利害關係人ニ對シ年賦補償金ヲ支拂ヒタル上隣接採掘權者ノ敷設セル通路及運搬用軌道ヲ使用スルコトヲ得、協議一致セサル場合ニ於テハ右補償金ハ裁判所調査ノ上之ヲ決定ス

第五十八條　採掘權者ハ總テ利害關係人ノ承認ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ工務局、鑛山局ノ申告及地方行政長官ノ提案ニ基キ總督ノ宣スル公益宣言（une déclaration d'utilité publique）ニ依ルニ非サレハ鑛區々域外ニ於テ自己ノ鑛山ヲ之ニ近接セル官營鐵道ニ連絡セシムル可キ鐵道ヲ敷設スルコトヲ得ス

右ノ鐵道ハ公益宣言ヲ添付セル仕樣書（le cahier des charges）ニ依リ定メラレタル規定ニ從ヒ總督之ヲ認可ス、右仕樣書ハ該鐵道カ必要ニ應シ公共ノ用ニ供セラル可キ旨規定スルモノトス

第五十九條　通風又ハ排水ノ爲相隣接スル二鑛區ノ鑛山ヲ連絡シ或ハ相隣接スル鑛區ノ鑛山ニ共用セラルヘキ通風、乾燥又ハ救助ノ爲ノ孔道ヲ開鑿スルヲ目的トスル工事ノ實施カ必要ト認メラルル場合ニ於テハ各採掘權者ハ右工事ノ實施ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス、且ツ右ニ依リ受ケタル利益ノ割合ニ應シ各々協力スルコトヲ要ス

右工事ハ各採掘權者ニ協議ノ上鑛山局長ノ申告及地方行政長官ノ提案ニ基キ總督之ヲ命ス

第六十條　鑛山ノ採掘工事カ隣接セル又ハ累層セル（superposée）他ノ鑛山ノ採掘ニ對シ損害ヲ與フル場合例ヘハ多量ノ水カ後者ニ侵入シ以テ損害ヲ及ホスカ如キ場合ニ於テハ採掘權者ハ賠償スルコトヲ要ス

右ニ反シ同工事カ機械又ハ坑孔ヲ以テ他ノ鑛山ノ水ノ全部又ハ一部ヲ排除スルノ目的ヲ以テ爲サレタル場合

ニ於テハ相手方鑛山ノ採掘權者ハ右利益ニ要シタル費用ノ割合ニ應シ曩採掘權者ニ對シ補償金ヲ支拂フコトヲ要ス、右補償金額ハ裁判所調査ノ上之ヲ決定ス

第六十一條　地方行政長官ハ鑛山局長ノ申告ニ基キ各採掘權者ニ協議ノ上右ニ對シソノ事業カ相隣接スル設定鑛區ノ事業ト聯絡サルルコトヲ防止スル爲鑛區區域ノ全部又ハ一部ニ充分ナル幅員ヲ有スル境界鑛塊ヲ殘置セシムルコトヲ命スルコトヲ得、右境界鑛塊（Investison）ノ設定ハ之カ必要ト認メラルル場合ニ於テハ一方ノ採掘權者ヨリ他ノ採掘權者ニ對スル補償金ノ支拂ヲ生スルコトナシ

第四節　採掘ニ關スル監督

第六十二條　總テ鑛山或ハソノ附帶事業ニ於テ惹起セル重大ナル事故ハ總督ノ定メタル樣式ニ從ヒ可及的短期間內ニ政府ノ認知ヲ得ルコトヲ要ス

總テ採掘權者ハソノ採掘地ニ充分ナル醫藥及勞働者ニ缺ク可カラサル救助施設ヲ備フルコトヲ要ス

第六十三條　鑛山事業ハ營業規定（les règles de l'art）ニ從ヒ管理セラルルコトヲ要ス、ソノ技術的監督ハ採掘人（exploitant）カ州長官及鑛山局長ノ認知ヲ得タル一名ノ特定管理人（un chef de service unique）ヲ以テ確保セラルルモノトス

（本第二項ハ一九二八年八月三十一日附大統領令ヲ以テ修正）採掘權者ハソノ事業カ公共ノ治安、安全、鑛夫ノ衞生並ニ資源、國營鐵道、國有水路ノ航行可能性及土地所有權ノ保持ニ及ホス可キ危險ノ原因ヲ除去スルカ爲鑛山局長ノ申告ニ基キ州長官ノ命シタル處分ニ服スルコトヲ要ス

右ノ處分ハ緊急ヲ要スル場合ニ於テハ鑛山局長又ハ州長官之ヲ命ス

印度支那各國ニ於ケル各地方行政長官ハ鑛山使用人ノ安全確保ノ爲メ鑛山局長ノ申告ニ基キ規則ヲ制定ス

第六十四條　採掘權者ハ鑛山ニ關スル法律及規則ニ基キ政府ノ命シタル處分ノ實施ニ依リ生シタル損害ニ對シテハ總テ賠償金ヲ支拂フコトヲ要セス

第六十五條　總テ鑛區ハ總督令ヲ以テ定メラレタル雛形ニ從ヒ左記ヲ備置クコトヲ要ス

一、鑛業施業案（Un plan des travaux）及必要ナル場合ハ右施業案ニ添付セラルヘキ土地見取圖（Un plan de surface）

二、採掘ニ關スル總テノ事業ヲ記載セル鑛業簿（Un registre d'avancement des travaux）

三、鑛業ニ使用セル勞働者ノ監督日誌（Un registre du contrôle joarnalier des ourvriers）

四、採掘、販賣及輸送ニ關スル帳簿（Un registre d'extraction, de vente et d'expedition）

州長官、鑛山局官吏及其他總テ州長官ニ依リ權利ヲ付與セラレタル官吏ハソノ視察ニ際シ右ノ施業案及帳簿ヲ提示セシムルコトヲ得

採掘權者ハ每年鑛山局長ニ對シ前年ニ行ハレタル鑛業施業複本及採掘鑛物ノ種別、品位並ニ鑛山使用人ニ關スル總テノ統計ヲ提出スルモノトス

採掘權者ハ州長官、鑛山局長及其他州長官ニ依リ權利ヲ付與セラレタル政府ノ官吏ニ對シソノ鑛山ニ附帶スル事業ニ付テ之ヲ視察スルヲ得ルノ便宜ヲ供與スルコトヲ要ス

第六十六條　採掘權者カ所定ノ施業案ヲ備置クコトヲ怠リ又ハ政府ニ依リ命セラレタル事業ヲ與ヘラレタル期間內ニ實施セサル場合ニ於テハ政府ハ當事者ノ費用ニ於テ右施行案ヲ作製セシメ又ハ事業ヲ實施セシムルコトヲ得

第六十七條　採掘權者ニ於テ指定セラレタル期間內ニ事業ノ技術的監督ノ統一ヲ確保セサル場合ニ於テハ鑛山局長ノ申告及地方行政長官ノ提案ニ基キ總督令ヲ以テ事業ノ全部又ハ一部ノ禁止ヲ命スルコトヲ得

第六十八條　本令及ソノ施行ノ爲布告セラル規則若クハ行政行爲（actes administratifs）ニ違反セル試掘及採掘事業ハ總テ行政處分（mesure administrative）ヲ以テ禁止スルコトヲ得、但シ次章ニ定メタル罰則ノ適用ヲ留保スルモノトス

第六十九條　境界設定ノ檢證（第四十七條）及鑛業施業案又ハ事業實施ノ檢證（第六十六條）ニ要スル費用ハ地方行政長官ニ依リ命セラレタル執行任務ニ基キ土地局（le Service des domaines）之ヲ徵收ス

第五節　試掘權者ノ權利及義務

第七十條　本章第三節及第四節ノ規定ハ鑛山試掘權者ニ對シ適用ス、但シ第六十五條ニ規定セル帳簿及施業案ノ備付ハ鑛山局長カ試掘權者ニ對シ實行ヲ要求セル場合ニ於テノミ必要トス

第六章　裁判及罰則

第七十一條　（一九一六年十一月十二日附大統領令ヲ以テ修正本令實施ニ付キ行政行爲ヲ生セシムル訴訟ハ總テ行政訴訟委員會（le Conseil du Contentieux administratif）ノ權限ニ屬シ右委員會ハ總督ニ諮問ノ上之

ヲ裁定ス

總督及訴訟當事者ハ右行政訴訟委員會ノ判決ニ對シ之ヲ參事院（le Conseil d'Etat）ニ上訴スルコトヲ得

第七十二條　總テ試掘許可及採掘許可ノ鑛區侵害ニ關スル訴訟カ裁判所ニ提起セラレタル場合ニ於テハ鑛山局ノ報告及申告ヲ以テ鑑定人ノ報告ト見做スコトヲ得

第七十三條　本令及ソノ施行ニ關スル總督令又ハ總督決定ノ規定ニ對スル違反ハ司法警察官吏、鑛山局官吏及其他總督ニ依リ特ニ任命セラレタル官吏之ヲ檢證ス、本條ニ基キ作成セラレタル檢證調書（procès-verbal）ハ反對ノ立證アル迄ハ之ヲ信憑スヘキモノトシ右ノ確定アル迄ハ登錄稅ノ納付ヲ留保シ（en débet）三十日以內ニ登錄セラルルコトヲ要ス、然ラサル時ハ無效トス

第七十四條　試掘許可地ノ中心標識又ハ鑛區ノ境界ヲ不正ナル方法ヲ以テ破毀シ、轉置シ又ハ修正セル者ハ總テ百法乃至千法ノ罰金並ニ十五日乃至二箇年ノ禁錮若ハ單ニ前二者ノ一ニ處ス

第七十五條　鑛物ノ試掘又ハ採掘ニ不正ナル方法ヲ以テ從事スル者ハ總テ十六法乃至五百法ノ罰金及六日乃至一箇月ノ禁錮若ク ハ單ニ前二者ノ一ニ處ス

第七十六條　左ニ該當スル者ハ十六法乃至百法ノ罰金ニ處ス

一、總テ試掘權者ニシテ適法ニ任命セラレタル官吏ニ對シ試掘許可ノ中心標識ヲ地上ニ於テ指示スルノ義務ヲ怠リ又ハ右標識ヲ明確ナル狀態ニ維持セサルモノ

二、總テ採掘權者ニシテ鑛區ノ境界ヲ明確ナル狀態ニ維持セサルモノ

三、總テ鑛山探査人（explorateur）又ハ採掘權者ニシテ第五十一條ノ規定ヲ遵守セサルモノ

四、總テ本令ノ實施ニ關シ公布セラレタル規則又ハ決定ニ違反セルモノ

五、總テ採掘人（exploitant）又ハ探査人（explorateur）ニシテ正規ノ方法ヲ以テソノ帳簿及施業案ヲ保持セス或ハ政府ニ依リ權利ヲ付與セラレタル官吏ニ對シ右ノ提示ヲ拒否シ或ハ命セラレタル施業案ハ報告書ノ複本ヲ送付セス若ク ハソノ鑛山ニ附帶スル事業ヲ視察スルヲ得ルノ便宜ヲ供與セサルモノ

第七十七條　總テ上記各條ニ規定セル違反ノ一ヲ以テ處罰セラレタル者ハソノ禁錮刑ノ滿了又ハ罰金ノ納付若ク ハ前二者ノ時效發生後十二箇月以內ニ再ヒ同一ノ違反ヲ爲シタル場合ニ於テハ最大限ノ禁錮及罰金ニ處セラレ而シテ右處罰ハソノ二倍以內ヲ以テ宣告スルヲ得可シ

第七十八條　刑法第四百六十三條ハ本令ノ實施ニ於テ宣告セラレタル刑罰ニ適用ス

第七章　暫　定　規　定

第七十九條　總テ千八百八十八年十月十六日、千八百九十七年二月二十五日及千九百四年十二月三十一日附大統領令ノ規定ニ基キ設定セラレタル採掘權ハ當然本令ノ規定ヲ適用ス、右採掘權ハ第三者ノ權利ヲ留保シ爾後鑛山トシテ分類セラルル鑛山ヲ含ムモノトス

但シ前記各大統領令ノ規定ニ基キ設定セラレタル燃料鑛山（mines de combustibles）ノ採掘權ハ依然千八百九十七年二月二十五日附大統領令ニ於テ規定セラレタル第一種鑛物ヲ含ムモノトシ且舊鑛區稅ヲ納付スルモノトス

特別ノ契約ニ基キ設定セラレタル採掘權ハソノ面積、賣買、拋棄及國庫ニ納付スヘキ鑛區稅ニ付テハ本令ノ規定ニ依ラサルモノトス、但シ右以外ノ事項ニ付テハ總テ本令ノ規定ヲ適用ス、是等鑛山ノ所有權者ハ印度支那官報ニ拔抄ヲ以テ公示セラルル總督ニ對スル申請ニ基キ本令ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトシ右鑛山ハ上記揭載日附當日ヨリ新規定ニ依レルモノトス右鑛山カ燃料鑛山ト認メラルル場合ニ於テハ依然千八百九十七年二月二十五日附大統領令ニ於テ規定セル第一種鑛物ノミヲ含ムモノトシ且ツ舊鑛區稅ヲ納付スルモノトス

第八十條　本令發布以前又ハ以後ニ於テ設定セラレタル採掘權ハ千八百九十七年二月二十五日附大統領令ニ於テ石坑トシテ分類セラレタルモ本令ニ於テハ鑛山トシテ分類セラル可キ鑛物ニ對シ特定人ノ取得シタル權利ヲ害スルコトナシ、但シ右權利ハ印度支那官報ニ揭載セラルヘキ特別ノ申請ニ基キ本令ノ適用ヲ受ク可キ日ヨリ一箇年以內ニ鑛山局長ニ通告セラルルコトヲ要ス

第八十一條　千八百九十七年二月二十五日及千九百四年十二月三十一日附大統領令ニ基キ屆出セラレ正當ニ取得セラレタル試掘制限地域ニ對スル權利ハ舊形式及舊條件ニ基キ存續スルモノトス

右權利ニ基ク採掘許可ノ出願ハ左ノ條件ニ依ルヘシ

本令實施ノ時既ニ提出セラレアリタル出願ハ千八百九十七年二月二十五日附大統領令ニ於テ規定セラレタル形式及條件ニ基キ審理セラルヘシ、右ノ出願ニ基ク採掘權ハ千八百九十七年二月二十五日附大統領令ノ規定ニ基キ設定セラレタル採掘權ニ對シ明記セラレタル規定ニ依ルヘシ

舊試掘制限地域ニ對スル出願ニ基キ且本令ノ實施後提出セラレタル採掘許可ノ出願ハ形式、面積及長方形ノ

位置ニ付テハ千八百九十七年二月二十五日附大統領令第二十四條ニ定メラレタル規定ニ從ヒ書類ヲ作製シ提示シ審理セラルルコトヲ要シ且シ右以外ノ事項ニ付テハ總テ本令ニ定メラレタル規定ニ從フコトヲ要ス、但ツ總テ本令ノ規定ニ依ル採掘許可ト見做ス

第八十二條　老撾ニ所在スル鑛山ニ對スル登記及記錄ハ右地ニ登記署ノ設置（une conservation des hypothèques）ノ設置セラルル迄「プノンペン」登記署ニ於テ爲スモノトス

第八章　雜　則

第八十三條　總督ハ鑛山局長ノ申告ニ基キ本令實施ニ必要ナル總テノ規則ヲ定ム

第八十四條　總督ハ若干ノ限定地域ニ對シ公共ノ秩序ノ爲之カ試掘獨占權申請ノ優先ヲ停止スルコトヲ得

右ノ總督令ハ植民大臣ニ移牒セラレ且效力ヲ有センカ爲ニハ發布後六箇月以內ニ印度支那官報ニ公示セラルヘキ大臣ノ承認（ratification）ヲ受クルコトヲ要ス

第八十五條　千八百九十七年二月二十五日及千九百四年十二月三十一日附各大統領令ハ廢止ス

但シ千八百九十七年二月二十五日附大統領令第五十五條ニ定メタル從價稅（la taxe ad valorem）ハ特別大統領令ヲ以テ定メラルル迄存續スルモノトス

（佛印鑛業法了）

鑛山採掘權ノ抛棄ニ關スル規定

（千九百十三年五月二十日附印度支那總督制令定）

第一條　總テ鑛山採掘許可ノ權利抛棄ハ州長官若クハソノ代表者ニ對シ州首都ノ官廳ニ於テ提出スルコトヲ要ス

右權利抛棄ノ書類作製人ノ署名ハ適法ナルコトノ證明セラルルコトヲ要ス

州長官ハ適法ナルコトノ證明セラレタル權利抛棄ハ之ヲ特別ノ登錄簿ニ登錄シ且右ニ對スル受領證ヲ交付スルモノトス、右登錄簿ハ總テ希望者ニ對シ公開セラルルモノトス

州長官ハ右權利抛棄ヲ地方行政長官ニ移牒シ地方行政長官ハ鑛山局長ニ通達シ之カ審査ヲ行ハシム次テ右ノ調書（dossier）ハ鑛山局長ノ申告及地方行政長官ノ提案ヲ附シ總督ニ通達セラルルモノトス

第二條　右ノ權利抛棄カ正當ナル資格ヲ有スル者ニ依リナサレタル場合ニ於テハ總督ハ特別總督令ヲ以テ認可ス、右特別總督令ハ印度支那官報ニ揭載セラレ採掘許可出願人ニ通達セラルルモノトス

右ノ權利抛棄カ正當ナル資格ヲ有スル者ニ依リナサレタルニ非サル場合及採掘許可出願人カソノ名義ニ於テナサレタル權利抛棄ヲ追認スルヤ（ratifier）否認スルヤ（désavouer）ノ履行ヲ要求セラレタルニ拘ラス之カ回答ヲ規定ノ期間內ニナササル場合ニ於テハ總督ハ右權利抛棄ノ無效（nulle et non avenue）ヲ宣スル旨決定ス、右決定ハ印度支那官報ニ揭載シ且ツ採掘許可出願人ニ通達セラルルモノトシ、爾後ノ採掘許可出

願ノ審理（instruction）ハ一般所定ノ規定ニ從フモノトス

鑛業權者ノ國籍ニ關スル規定

（千九百十六年一月八日附大統領令制定千九百十六年三月八日公布）

第一條　「アルシェリア」「チュニス」及「モロッコ」ヲ除ク他ノ佛蘭西領植民地及保護國ニ於ケル鑛山ノ探鑛（exploitation）試掘（recherche）探鑛（exploration）ノ認可若クハ許可、鑛山採掘許可、鑛山試掘許可ノ更新若クハ採掘許可ノ更新ハ佛蘭西ト交戰狀態ニ在ル國家ノ國籍ヲ有スルモノ若クハソノ管轄ヲ受クルモノニ對シテハ之ヲ認可（accorder）下附（adjuger）讓渡（céder）右ノモノニ依リ取得（acquerir）受領（recevoir）ノナササルゴトヲ得ス

上記ノ規定ニ違反セル場合ニ於テハ植民地總督ハ植民地若クハ保護國ノ鑛山ヲ規定セル法規ノ條文ニ從ヒ右鑛山ノ試掘若クハ採掘ノ失權ヲ宣スヘシ、尙右ノ場合ハ利害關係人ニ對シ豫告ヲ發シ若クハ遲滯ニ附スルコトヲ要セス上記規定ノ違反ノ一アリタルコトノ證明アルヲ以テ足ルヘシ

上記規定ハ現行ノ大統領令及法規ニ基ク他ノ理由ニ依ル失權ノ效力ヲ妨クルモノニアラス

附錄

第二條　鑛山ノ試掘若クハ採掘ノ爲メ設立セラレ若クハ右試掘又ハ採掘ニ從事スル會社ハ佛蘭西ノ法律ニ基キ設立セラレ且ツソノ本社所在地ヲ佛蘭西又ハ佛蘭西領植民地內ニ有スルコトヲ要ス

株式會社（Sociétés anonymes）ニアリテハ取締役（Conseil d'Administration）ノ四分ノ三、社長（Prés

ident）專務取締役（Administrateur delegné）並ニ支配人（directeur）ハ佛蘭西國籍民（nationaux）佛蘭西國臣民（sujets）若クハ佛蘭西保護領民（protégés）タルコトヲ要ス、採式合資會社（Société en commandite par action）ニアリテハ監査役ノ四分ノ三、社長（President）業務執行社員（gérant）ハ佛蘭西國籍民、佛蘭西國臣民若クハ佛蘭西保護領民タルコトヲ要ス、如何ナル場合ニ於テモ佛蘭西ト交戰狀態ニ在ル國家ノ國籍ヲ有スル者若クハソノ管轄ヲ受クル者ハ取締役若クハ監査役若クハ監査役タルコトヲ得ス

鑛山ノ試掘及採掘ヲ目的トシテ設立セラレタル會社ハ鑛山局長ニ對シ定款ノ雛形及取締役名簿若クハ監査役名簿ヲ提出スルコトヲ要ス、右ノ變更モ總テ鑛山局長ニ依リ認知セラルルコトヲ要ス

上記ノ規定ニ違反セル場合ニ於テハソノ會社ノ所有シ、管理シ若クハ享有セル鑛山試掘權若クハ採掘權ハソノ植民地又ハ保護國ニ於ケル鑛山ヲ規定セル法規ノ條文ニ從ヒ失權ヲ宣セラルヘシ

本條第一項及第二項ノ規定ハ本令カ植民地ニ公布セラレタル當時ニ於テ既ニ試掘權若クハ採掘權ヲ所有シ若クハ監理セル會社ニ對シテハ適用セス、但シ總テ試掘又ハ採鑛ノ認可、右許可ノ更新若クハ鑛山採掘許可ハ本規定ニ適合セサル場合ニ於テハ植民地總督若クハ知事ノ申告ニ依ル植民大臣ノ提案ニ基キ決定セル大統領令ニ依ルニ非サレハ認可若クハ讓渡ヲナスコトヲ得ス、試掘又ハ採鑛ノ認可、採掘許可ノ設定ハ政府ニ於テ適當ト認メタル場合ニ於テハ拒否セラルルコトアルヘシ、但シ右拒否ハ出願會社ノ利益ノ爲メノ賠償金若クハ其他ヲ生スルコトナシ

鑛山試掘權者ノ資格ニ關スル規定

（千九百十八年七月二十八日附大統領令制定）

第一條　「アルジェリア」「チュニス」及「モロッコ」ヲ除ク他ノ佛蘭西領植民地及保護國ニ於テハ總テ探鑛（exploration）試掘（recherche）若クハ採鑛（exploitation）ノ許可及鑛山採掘許可ハ豫メ總督ニ依リ付與セラレタル身分證書（autorisation personnelle）ヲ有スル人若クハ會社ニ對シテナサレタル試掘許可若クハ採掘許可ノ移轉又ハ讓渡ハ身分證書ヲ有スル人若クハ會社ニアラサレハ認可セラルルコトナシ

何等カノ權原（titre）ニ基キナサレタル試掘許可若クハ採掘許可ノ出願ハ出願人カ本條ニ基キ付與セラレタル身分證書ノ番號及日附ニ從フモノトス

總テ試掘許可若ハ採掘許可ノ出願ハ出願人カ本條ニ基キ付與セラレタル身分證書ノ番號及日附ニ從フモノトス

總督ハ身分證書ヲ拒否スルコトヲ得但シ總督ハ右拒否ノ理由ヲ認知セシムルコトヲ要セス

右身分證書ハ樞密院（Conseil privé）若クハ行政參事會（Conseil d'Administration）ニ於テ總督令ニ依リ停止セシムルコトヲ得、但シ右證書付與ノ停止ハ溯及ノ效力ナク且ツ右處分ノ理由ヲ認知セシムルコトヲ要セス且ツ右ノ處分ハ利害關係人ニ對シ補償金若クハ何等カノ損害賠償金ヲ請求スルノ權利ヲ生セス

第二條　前條ノ規定並ニ千九百十六年一月八日附大統領令第二條ノ規定ハ採鑛許可、試掘許可若クハ採掘許可ヲ何等カノ形式ニ於テ享有シ又ハ監理セル總テノ會社ニ對シ適用ス

鑛山試掘許可ニ要スル固定稅ニ關スル規定

（千九百二十九年七月二十六日附印度支那總督令制定）

（一）交趾支那ニ關スル規定

第一條　千九百十二年一月二十六日附大統領令第十六條ニ定メラレ且ツ試掘許可付與ノ準據スル條件タルヘキ納稅ハ交趾支那ニ於テハ總テ五百法トス

第二條　本令ハ千九百二十九年八月十日ヨリ施行ス、急ヲ要スル場合ニ於テハ右公示ハ市町村役場若クハ州長官官廳ノ揭示板ニ之ヲナスヘシ

（二）東京ニ關スル規定

第一條　千九百十二年一月二十六日附大統領令第十六條ニ定メラレ且ツ試掘許可付與ノ準據スル條件タルヘキ納稅ハ東京ニ於テハ總テ五百法トス

第二條　本令ハ千九百二十九年八月十日ヨリ施行ス急ヲ要スル場合ニ於テハ右公示ハ市町村役場若クハ州長官官廳ノ揭示板ニ之ヲナスヘシ

（三）安南ニ關スル規定

第一條　千九百十二年二月二十六日附大統領令第十六條ニ定メラレ且ツ試掘許可付與ノ準據スル條件タルヘキ納稅ハ安南ニ於テハ總テ五百法トス

第二條　本令ハ千九百二十九年八月十日ヨリ施行ス、急ヲ要スル場合ニ於テハ右公示ハ市町村役場若クハ州長官官廳ノ揭示板ニ之ヲナスヘシ

（四）東埔寨ニ關スル規定

第一條　千九百十二年一月二十六日附大統領令第十六條ニ定メラレ且ツ試掘許可付與ノ準據スル條件タルヘキ納稅ハ東埔寨ニ於テハ總テ五百法トス

第二條　本令ハ千九百二十九年八月十日ヨリ施行ス、急ヲ要スル場合ニ於テハ右公示ハ市町村役場若クハ州長官官廳ノ揭示板ニ之ヲナスヘシ

（五）老檛ニ關スル規定

第一條　千九百十二年一月二十六日附大統領令第十六條ニ定メラレ且ツ試掘許可付與ノ準據スル條件タルヘキ納稅ハ老檛ニ於テハ總テ五百法トス

第二條　本令ハ千九百二十九年八月十日ヨリ施行ス急ヲ要スル場合ニ於テハ右公示ハ市町村役場若クハ州長官官廳ノ揭示板ニ之ヲナスヘシ

（六）廣州灣租借地ニ關スル規定

第一條　千九百十二年一月二十六日附大統領令第十六條ニ定メラレ且ツ試掘許可付與ノ準據スル條件タルヘキ納稅ハ廣州灣租借地ニ於テハ總テ五百法トス

第二條　本令ハ千九百二十九年八月十日ヨリ施行ス、急ヲ要スル場合ニ於テハ右公示ハ市町村役場及州長官官

聽ノ掲示板ニ之ヲナスヘシ

鑛産稅ニ關スル規定

（千九百二十八年七月十二日附大統領令）

第一條　印度支那ニ於テ採掘セラルル燃料及右ヨリ生スル工業生産物、印度支那ニ於テ採掘セラルル鑛物及右ノ物理的、冶金的、化學的處理ニ依リ生スル精錬生産物（produits d'enrichissement）並ニ印度支那ニ於テ生産セラルル金屬ニ對スル内國稅（taxe interieure）ノ課稅方法及徵稅規定ヲ制定セル千九百二十八年三月十日附印度支那總督令ヲ裁可ス

第二條　印度支那ニ於テ産スル特定鑛業生産物及金屬ニ對スル輸出稅（taxe de sortie）ヲ制定セル千九百十八年十一月二十三日附大統領令ノ規定ハ本令ノ印度支那施行ノ當日ヨリ效力ヲ停止スヘシ

（千九百二十八年三月十日附總督令制定）

第一條　印度支那ニ於テ採掘セラルル燃料及右ヨリ生スル工業生産物、印度支那ニ於テ採掘セラルル鑛物及右ノ物理的、冶金的、化學的處理ニ依リ生スル精錬生産物、並ニ上記ノ印度支那ニ於テ生産サルル金屬ハ左表ニ定メタル稅ヲ課セラルヘキモノトス

無煙炭及粗炭（Anthracites et charbons maigres）

（Menu et tout-venant） 切込炭	一瓲ニ付	〇・〇一 比率
（Criblé et calibré） 塊炭及粉末炭	同	〇・一七
（Charbons gras et mi-gras, toutes categories） 瀝青炭、半瀝青炭及ソノ他同類ノモノ	同	〇・二〇
（Lignites, toutes categories） 褐炭及ソノ他同類ノモノ	同	〇・一四
（Agglomérés, cokes et mélanges decharbons） 煉炭、骸炭及印度支那産石炭ノ混合物	同	〇・一二
（Cassitérite） 錫石	同	三〇・〇〇
（Minerais mixtes d'étain et de tungstène） 錫及「タングステン」混合物	同	二〇・〇〇
（Wolfram） ウォルフラム	同	一〇・〇〇
（Minerais de zinc） 亞鉛鑛	一瓲ニ付	一・一〇
（Minerais de fer） 鐵鑛	同	〇・一五
（Phosphates moulus） 粉末燐酸鹽	同	〇・三〇

(Concéntrés de chromite)「クローム」含有物	同	○·五○
ソノ他ノ鑛物及ソノ精錬生產物	同	一·五○
品位如何ヲ問ハス總テノ金塊	一瓲ニ付	二四·○○

（本第一條ハ一九二九年二月二十八日附總督令ヲ以テ左ノ如ク修正ス）

錫石	一噸ニ付	二二·○○
錫及「タングステン」混成物		一五·○○
亞鉛鑛		○·七○

第二條　精錬シタルト否トニ拘ス燃料及鑛物ニ對スル本稅ハ鑛山ノ總生產物換言セハ後日ノ使用ニ供セラルルト否トヲ問ハス鑛山ヨリ生スル總テノ石炭若クハ鑛物ニ對シ課セラルヘシ、特ニ右ハ鑛山ソノモノニ依リ使用セラルルト鑛山若クハ鑛山以外ニ於テ貯藏セラルルト鑛山附屬ノ工場ニ於テ處理セラルルト印度支那國內ニ於テ消費セラルルト或ハ外國ニ輸出セラルルトヲ問ハサルモノトス

但シ販賣ニ先立チ通常ノ狀態ニ於テハ採鑛ト不可分タルヘキ物理的若クハ化學的處理　焙燒（calcination）精錬等（enrichissement）ヲ受クルヲ要スル燃料若クハ鑛物ニ對スル課稅標準タル砲量ハ右處理ノ後ニ生スル砲量タルヘシ

金屬ニ對スル稅ハ後日ノ使用ニ供セラルルト否トヲ問ハス工場ノ總生產額ニ對シ課セラル可シ、特ニ右ハ工

場若クハ工場以外ニ於テ貯藏セラルルト印度支那國內ニ於テ消費セラルルト或ハ外國ニ輸出セラルルトヲ問ハサルモノトス

第三條　本令ノ適用ヲ受クル生產者ハ第一條ニ定メラレタル各品目ニ對スル前年度ノ生產量ヲ明記セル明細申告書（déclaration détaillée）ヲ毎年提出スルコトヲ要ス、但シ第一次申告ハ本令施行ノ日ヨリ千九百二十八年十二月三十一日ニ至ル間ノ生產量ニ對シテナサルレハ足ルヘシ

右申告ハ申告人ニ依リ公明且ツ正當ニ署名セラレ確認セラレタル複本二通ヲ以テ毎年五月一日迄ニ鑛山局ニ提出スルコトヲ要ス

第四條　本令ニ依リ規定セラルル鑛產稅ノ徵收ハ稅務局（Service des Douanes et Régies）ニ於テ行フ、右徵收ハ鑛山局ノ定メタル計算書（Etat de liquidation）ニ基キナサルルモノニシテ鑛山局ハ生產者ノ申告書ニ通ヲ共ニ右計算書ヲ稅務局ニ移付スルモノトス

右徵收ハ印度支那ニ於ケル間接稅（contributions indirectes）ニ關スル現法規ニ基キナスヘキモノトス

第五條　第三條ニ定メラレタル期間內ニ申告書ノ提出ヲナササルモノハ最低四十比弗ノ追加稅（demidroit en sus）ヲ課セラルヘシ

總テ申告ニシテ眞正ト認メラレサル場合ニ於テハ該當スル鑛產稅ノ四倍ニ等シキ罰金ヲ課セラルヘシ、右ハ最低四十比弗トス

本條ニ規定セル違反ハ複本三通ニ記載セラレタル檢證調書（procès-verbal）ヲ以テ鑛山局長ニ依リ檢證セラ

ルヘシ、鑛山局ハ右檢證調書ノ第一原本ヲ州若クハ裁判管區ニ於ケル檢事若クハ委任セラレタル裁判所長ニ對シ且ツ第二複本ヲ稅務局長ニ對シ可及的速カニ送達シ且ツ第三複本ハ鑛山局文書課ニ保存スルモノトス

右違反ハ印度支那ニ於ケル間接稅違反ニ對スル訴訟手續ニ關スル千九百三年六月五日附總督令ノ定ムル規定ニ從ヒ鑛山局長ノ申請ニ基キ稅務局提訴スヘシ

第六條　生產物ニ對スル從價二分ノ一般內國稅ヲ制定セル千九百二十七年四月八日附總督令ノ規定ハ本令ニ依リ指定セラレタル生產物ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ適セス

鑛區稅及鑛業收益稅ニ關スル規定

（千九百三十一年十一月二十日總督令制定）

第一條　鑛業稅ノ制度ヲ修正セル千九百三十一年五月二十九日附大統領令ヲ千九百三十二年一月一日ヨリ印度支那ニ施行スル爲メ之ヲ公布ス

（千九百三十一年五月二十九日附大統領令制定）

第一條　印度支那ニ於ケル鑛山採掘權者ハ採掘許可書ニ定メラレタル地域ニ對シ每年一「エクタール」ニ付百分ノ六十比弗ヲ以テ計算セラレタル鑛區稅ヲ納付スヘシ

第一回鑛區稅ハ鑛區設定ノ次年度ヨリ課ス

鑛山採掘許可出願人ニシテソノ出願ノ提出後十二ケ月以內ニ總督ノ決定ヲ要セサルモノハ右期間滿了後ノ一

月一日ヨリ採掘許可書出願書ニ決メラレタル地域ニ對シ每年一「エクタール」ニ付百分ノ六十比弗ノ鑛區稅（redevance superficiaire）ヲ納付スヘシ

許可セラレタル鑛區面積カ出願面積ヨリ小ナル場合ニ於テハ鑛區稅ハ採掘許可書下付後ノ一月一日ヨリ右許可書ニ決メラレタル面積ニ付キ計算ス

第二條　（千九百三十六年三月六日附大統領令ヲ以テ修正）

鑛區稅ハ地方豫算ノ利益ノ爲メ徵收ス

鑛區稅ハ每年半期每ニ前納スルモノトス

鑛區稅ハ右ト類似セル直接稅ト同樣ノ方法ヲ以テ課稅シ且ツ徵收セラルモノトス、但シ左ノ事項ヲ例外トス

（一）　納稅目錄（rôle）ハ工務總監部長（鑛山局）之ヲ作成ス

（二）　明白ナル錯誤認メラレサル限リ鑛區稅ノ免除若クハ輕減ヲナスコトヲ得ス

第三條　（千九百三十六年三月六日附大統領令ヲ以テ修正）

政府ハ直接稅ニ關スル訴訟手續、强制執行及國庫ニ付與セラレタル特權ニ依ラスシテ千九百十二年一月二十六日附大統領令第四十九條ニ依リ定メラレタル採掘許可自體ニ關スル特權ヲ行使スルコトヲ得

第四條　印度支那ニ於ケル鑛山採掘權者又ハ採掘許可出願人並ニ千九百十二年一月二十六日附大統領令第二十三條ノ適用ニ基キソノ業務ヨリ得タル生產物ニシテ許可セラレタルモノニ付キ之ヲ處分スルヲ得ヘキ試掘許可ノ受益者ハ採掘セル生產物ノ價額ニ比例スル鑛業收益稅（redevance proportionelle）ヲ納付スヘシ右價額

ハ後記第五條ニ定ムル如ク請負的（forfaitairement）ニ確定セラレ且ツ右生産物カ或ハ一般貨物輸送機關ニ假令一時的タリトモ連絡セル河川又ハ鐵道ニ依リ或ハ海路ニ依リ運搬セラレ得ヘキ最近地點ニ搬出セラレタリト認メラレルヘキ生産物ノ價格ヲ云フ

本鑛業收益稅ノ適用ヲ受クヘキ鑛産物トハ鑛山採掘上技術的又ハ經濟的ニ不可分ナル機械的處理又ハ冶金的處理ニ依ル若クハ右ト同一性質ノ物理的化學的又ハ其他ノ處理ニ依ル原鑛ノ抽出（extraction）變形（transformation）又ハ精鍊（eurichissement）ヨリ生シタル販賣生産物ヲ云フ

右ノ性質ニ對シ異議アル場合ニ於テハ鑛山及工業總監部長（Inspecteur Général des Mines et de l'Industrie）ノ申告ニ基キ總督之ヲ決定ス

右販賣生産物カ同鑛山ノ採掘ヨリ生シタルニ非サルモ價額增加ノ見地ニ基キ合體セシメラレタル金屬物質、若クハ燃料物質ヲ含有セル場合ニ於テハ右販賣生産物ノ課稅價額ハ合體セシメラレタル物質ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ定メラルヘキモノトス

採掘セラルル燃料鑛物ニシテ採掘人ニ依リ販賣セラルル電力發生ノ爲メ使用セラルル場合ニ於テハ右ノ課稅價額ハ右ト同一又ハ最モ類似セル販賣生産物ノ課稅價格ニ基キ發熱量（pouvoirs calorifiques）ノ割合ニ應シ計算セラルヘキモノトス

本鑛業收益稅ノ稅率ハ總督府會議常置委員會ニ於テ採擇セラレタル總督令ヲ以テ定ムルモノトス、右稅率ハ生産物ヲ品質ニ從ヒ且ツ生産物若クハソノ含有物質ノ採掘セラレタル年度ニ於ケル商業上ノ平均相場ニ從ヒ

之ヲ變更スルコトヲ得、但シ右ノ變更ハ千分ノ十ヲ下リ千分ノ六十ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　販賣生産物ノ課稅標準價額（Valeur unitaire taxable）ハ右カ採掘セラレタル營業年度（exercice）ニ於ケル平均相場必要ナル場合ニ於テハ右ノ稅率ヲ定ムル年度ニ於ケル平均相場ニ基キ定メラルルモノニシテ鑛山及工業總監部長若クハソノ受任者、鑛山區長官及總督ノ任命セル登錄官吏（fonctionaire de l'enregistrement）ヨリ成ル委員會之ヲ請負的（forfaitairement）ニ決定ス

右委員會ハ本條ニ定メラレタル目的ノ爲メニハ總督ノ任命セル金屬鑛山採掘業代表者及燃料鑛山採掘代表者ヲ加フルコトアルヘク且ツ之ニ決議權（voix délibératives）ヲ付與スルモノトス

第六條　本鑛業收益稅ハ採掘權者若クハ土地賃借人カ申告セル前年度ニ於テ採掘シタル生産物ノ品質及數量ニ基キ、前條ニ述フルカ如ク確定セラレタル右生産物ノ標準價額ニ基キ且ツ第四條ノ適用ニ依リ採擇セラレタル總督令ヲ以テ定メラレタル稅率ニ從ヒ鑛山區長官（chef de l'arrondissement）毎年之ヲ決定ス

但シ一年間ニ於ケル生産物貯藏量カ增加シソノ營業年度ニ於ケル生産量ノ十分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ總督ハ上記申告ノ受理ト同時ニ作成セラレタル利害關係人ノ申請ニ基キ右十分ノ一ヲ超過スル貯藏量ニ對シ課稅ス可ク且ツ右ハ次年度ニ於テ生産セラレタルモノトシテ本條ノ再適用ヲ受クルコトヲ免レシメン爲便宜之ヲ控除スヘキ旨決定スルヲ得ヘシ

第七條　本鑛業收益稅ハ一旦定メラレタル納稅ニ對シ連帶責任ヲ有スル既知ノ採掘權者及土地賃借人ニ對シ印度支那ニ於ケル登錄稅ニ關スル現行法規ニ從ヒ徵收セラルヘシ

本稅徵收ニ關スル國庫ノ訴訟ノ時效時間ハ本令第八條ニ定メラレタル日ヨリ起算シテ五箇年トス

前記第五條第一項ノ適用ニ依リ定メラレタル三名ヨリ成ル委員會ハ第五條ニ基キ請負的ニ確定セラレタル價額ト生產物ニ對シ實際ニ取得セラレタル販賣價額トノ間ノ緩和ニ關スル大統領令ニ基キナサレタル申請ヲ裁決ス、但シ右差額ニ依リ生スル割增價額（Majoration）カ當該年度ニ於テ右鑛區ヨリ採掘セラレタル類似性質ヲ有スル生產物ノ全體ニ適用セラルル稅ノ一割ニ達セサル場合ニ於テハ上記ノ申請ハ認可セラレサルモノトス

本鑛業收益稅ヲ納付セサル採掘權者ハ總テ失權ノ責ヲ負フヘキモノトス、右失權ハ總督之ヲ宣シ且ツ千九百十二年一月二十六日附大統領令第四十九條ニ依リ定メラレタル條件ニ從ヒ鑛區競賣ニ附セラルヘキモノトス

第八條　第六條ニ基キ且ツ申告人ニ依リ眞實公正ニ署名セラレ確認セラレタル申告ハ每年三月一日以前ニ鑛山及工業總監部長ニ對シ複本二通ヲ以テ提出セラルヘキモノトス

第六條ニ依リ定メラレタル申告ニシテ規定期間內ニ提出セラレサル場合ニ於テハ採掘生產物ノ數量及品質ニ對スル評價及課稅ハ鑛山區長官職權ヲ以テ行ヒ且ツ追加稅（demi-droit en sus）ヲ課スヘシ

申告ニシテ眞正ヲ缺クモノト認メラレタル場合ニ於テハ右ニ依リ生スル未納額（mois-perçu）ノ四嚢ニ相當スル罰金ヲ支拂フコトヲ要ス但シ右額ハ四十比弗ヲ下ルコトヲ得ス

鑛山區長官ハ檢定分析ノ目的ヲ以テ鑛現場ニ於テ若クハ輸送中ニナサルル荷役ノ際ニ於テ採掘生產物ノ見本ヲ抽出ヲナスコトヲ得

第九條　正當ノ理由ニ依ラスシテ鑛區ノ採掘ヲ行ハス若クハ採掘ヲ行ヒテモ不完全ナル場合ニ於テハ總督ハ右採掘權者ニ對シ失權ヲ宣スヘシ

本規定適用ニ關スル規則ハ追テ大統領令ヲ以テ定ムヘシ

第十條　鑛區稅若クハ鑛業收益稅ノ未納ニ依リ失權セル採掘權者ハ右失權命令ヲ受ケサルカ爲ニ支拂フヘカリシ額ノ百分ノ二十五以上ヲ納付シ且ツ更ニ政府ニ依リ支拂ハレタル訴訟費用ヲ返付シ以テ失權ノ效力ヲ停止セシムルコトヲ得

第十一條　千九百十二年一月二十六日附大統領令第三十八條ノ適用ヲ受クヘク留保セラレタル地域內ニ所在セル鑛區若クハ分割地區ノ競賣ハ總テ鑛山及工業總監部長ノ申告ニ基キ總督ノ決定ヲ以テ定メラレタル最低價額以上ノ鑓上（enchères）ヲ以テナスヘキモノトス

競落人ハ右競賣當日以降本令第一條ニ定メラレタル鑛區稅ヲ納付スルコトヲ要ス、右競落人ハ自己ニナサレタル通告ノ日ヨリ三箇月以內ニ於テ右競賣金額竝ニ競賣ノ行ハレタル月以後ノ六箇月間ニ對スル鑛區稅ヲ納付スルコトヲ要ス、然ラサレハソノ權利ヲ喪失シソノ保證金ハ沒收セラレ且ツ爾後ノ新競賣ニ參加スルコトヲ得ス

附錄

第十二條　本令ノ規定ハ追テ總督ニ依リ定メラルヘキ日ヨリ起算シ現在審理中ニ於ケル總テノ採掘許可出願並ニ印度支那ニ於テ設定セラレタル若クハ設定セラルヘキ總テノ鑛山採掘許可ニ對シ適用セラルヘシ、右ハ採掘許可設定ノ日附、種類若クハ事由ヲ問ハサルモノトス

鑛區稅ヲ納付セサル採掘許可ノ出願ハ千九百十二年一月二十六日附大統領令第三十一條ノ規定ニ基キ却下セラルヘシ

第十三條　本鑛區稅新稅率ハ暫定的方法トシテ本令公布後ノ一月一日ヨリ起算シテ施行セラルヘキモノトス

第十四條　總督ハ鑛山及工業總督部長ノ申告ニ基キ本令ノ實施ニ必要ナル命令ヲ發ス

第十五條　千九百二十八年七月十二日附大統領令及其他本令ニ反スル總テノ規定ハ廢止ス、但シ千九百十二年一月二十六日附大統領令第四十三條第四十八條及千九百二十八年三月十日附總督令第六條ニ定メラレタル認可ニ關スル事項ヲ除クモノトス

第十六條　本令ノ施行ニ關シテハ植民大臣責ヲ負ヒ且ツ佛蘭西共和國官報及印度支那官報ニ公示シ且ツ植民省公報ニ掲載ス

外國人入國滯在規則

印度支那入國滯在規則條文

第一章　省　略

從來印度支那の入國滯在規則は外國人に對しても極めて簡單で入國の際入國稅或ひは見せ金等の必要もなく、單に上陸後直ちに該地警察に入國の旨を申告し併せてその目的及び居住地を屆出づる事を以て事足りてゐた。然るに一九二九年六月卅日附法律及び一九三三年八月卅一日附大統領令の入國滯在規則改正に依つて甚だしく嚴重なるものとなつた。即ち今後印度支那に渡航せんとする者はこの新規則を心得て居なければ思はない障害に逢着する虞れがある。尚入國手數料として二比弗を徵收せられる。以下一九三三年八月三一日附大統領令を紹介する。

本規定は全文五章四十二箇條より成つてゐるが、本稿に於ては佛蘭西人、同籍民及び保護領民の入國を規定したる第一章五箇條を省略する。

第一條　乃至第五條省略

第二章　外國人ノ印度支那入國規定

第六條　印度支那ヘノ入國竝ニ滯在ニ關シ外國人ヲ左ノ二種ニ分ツ

一、非移民外國人

二、移民外國人

左ニ揭グル者ハ本令ノ適用上非移民外國人トス

一、滯在期間ノ如何ヲ問ハス外國領事館員竝ニ其ノ家族及隨員

二、本國政府ノ許可ヲ得テ印度支那ニ渡來スル外國ノ官公吏、雇員、代理者竝ニ其ノ家族ニシテ滯在期間三箇月ヲ超過スルコトナキ者、滯在期間ハ地方長官ノ許可ヲ得テ三箇月毎ニ更新スルコトヲ得

三、通過旅行者竝ニ最終目的ニ赴ク爲ノ船待旅行者ニシテ其ノ滯在期間三箇月ヲ超過スルコトナキ者

四、復航切符ヲ有スル觀光客、第五條ニ規定セル官憲ハ觀光客ノ資格ヲ有スト主張スル旅行者ヨリ各種ノ證據書類ヲ徵スルコトヲ得、如何ナル場合ニ於テモ四等旅客ハ觀光客トシテ取扱ハルルコトナシ

五、業務開設ノ爲渡航スル商店代表人、銀行家、商人、工業家、農場所有者ニシテ其ノ滯在期間三箇月ヲ超過スルコトナク、且營業鑑札ノ發給ヲ必要トスル商行爲ヲ爲ササル者、尙右ニ揭ケタル者ハ其ノ業務ニ關スル諸規則ノ拘束ヲ受クルハ勿論ナリ

第七條　非移民外國人ハ佛蘭西外交官又ハ領事官ノ査證シタル旅券ヲ提示シタル後印度支那ニ入國スルコトヲ

得、但シ特別取極メニヨリ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　非移民査證ヲ請求スル一切ノ外國人又ハ査證ヲ要セサル外國人ニシテ、非移民ノ資格アルコトヲ主張セント欲スル者ハ其ノ本國ナレハ佛蘭西領事官憲ニ又ハ佛蘭西ニ居住スル場合ハ本國領事官憲ニ本令附屬ノ樣式第三ニ基キ正副二通ノ申告書ヲ提出シ第六條ニ規定セル條件ヲ滿タセル者ナルコトヲ證明スヘシ

右申告ノ虛僞其ノ他ニ就テハ第二五條ニ規定シタル處罰ヲ受クルモノトス

前項ノ申告書ノ一通ハ此等官憲ニ於テ保存シ、ソノ申告ヲ檢査シタル後必要アレハ乘船許可書ヲ作成ス、他ノ一通ハ乘船許可書ト共ニ旅行者ニ返戻ス、此ノ申告書ハ到著ノ際之ニ關シ指定セラレタル官憲ニヨリ取調ヘラルルモノトス

領事官憲ニ依リ査證セラレタル申告書及ヒ乘船許可證ヲ受取ラスシテ旅行者ヲ乘船セシメタル場合、該旅行者カ入國ヲ許可セラレサリシ時ハ其ノ歸國費ハ汽船會社ノ負擔トス

第九條　上記ノ規定ニ從ハサル一切ノ非移民外國人ニシテ第六條ニ規定セル種類ノ船客ニ屬スルコトヲ證明シ得ス若クハ第一一條ニ規定セル證據書類及ヒ保證ナキ場合ハ上陸ヲ許可セサルモノトス、此ノ場合歸國費ハ全額本人ノ負擔トス

第一〇條　左ニ揭ケタル者ハ本令ノ適用上移民外國人トス

一、印度支那ニ於テ職業又ハ工業ヲ營ム目的ヲ以テ渡航スル外國人

二、印度支那ニ於ケル商業工業農業又ハ鑛業上ノ支配人、傭人監督若クハ職工トシテ勞務ニ從事スルタメニ

渡航スル外國人竝ニ家内勞働ニ從事スルタメ又ハ勞働者トシテ渡航スル者

三、一般ニ第六條ニ明示シタル如何ナル階級ニモ屬セサル一切ノ外國人

第一一條　移民外國人ハ印度支那入國ノ許可ヲ得ル爲左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、又七條ニ規定シタル特別取極メアル場合ノ他佛蘭西外交官又ハ領事官ノ正式査證アル旅券所持者タルコト

二、其ノ本國ニ出テ犯罪人名簿抄本ヲ交付スル規定アル場合ハ該抄本ヲ提出シ、然ラサル場合ニハ之ニ代ルヘキ公式書類又ハ申告書ヲ提出スヘシ、右書類ハ旅券ニ査證ヲ與フル官憲ノ適當ト認ムル樣式ニ依リ作成發給セラルルモノトス本項ノ書類ハ出發前三箇月以内ニ作製セラレタルモノナルコトヲ要ス

三、佛蘭西官憲又ハ本國官憲ノ公認スル醫師ニ於テ移民ノ從事セントスル勞働又ハ職業ニ不適當ナル何等ノ疾病又ハ廢疾ヲ有セサル旨ヲ證明シタル最近ノ健康診斷書ヲ提出スルコト

出發カ佛蘭西ノ一港ニ於テ行ハルル場合

第二條ノ規定ニ從ヒ其ノ本國ヘノ歸還ニ必要ナル金額、男子ハ甲板船客運賃、女子竝ニ十五歲以下ノ小兒ハ三等運賃ヲ汽船會社ニ寄託シテ領收書ヲ受ケ右金額ヲ寄託シ得サル場合ハ時宜ニ依リ其ノ歸國旅費ヲ徵スル旨ノ領事ノ保證書ヲ提出スルモノトス

出港カ外國ノ一港ニ於テ行ハルル場合

會社ニハ領事官憲ノ取計ニヨリ左ノ場合ニノミ移民ハ印度支那ニ上陸ヲ許可セラルル旨通知セラルヘシ

時宜ニ依リ其ノ歸國旅費ヲ供スル旨ノ本國領事ノ保證書ノ携帶者ナルコト

汽船事務長ニ歸國旅費ヲ寄託シタル船客ナルコト

此ノ金額ハ領收書引換ニ上陸港ノ印度支那官憲ニ交付セラルルモノトス

印度支那ニ入國ヲ許可セラレサル場合ハ移民ニ依リテ支拂ハレタル歸國旅費ハ汽船會社ノ手得トナルモノトス

印度支那總督ハ總督令ヲ以テ外國人ノ國籍ニ從ヒ寄託スヘキ金額ヲ定メ該金額カ如何ナル條件ヲ以テ豫算中ニ繰入レラレ又本人ニ返戻シセラルヘキヤヲ定ム

第一二條　上記ノ規定ニ從ハサル爲港ニ於テ上陸ヲ許可セラレサル一切ノ移民外國人ニシテ要求セラレタル證據書類ヲ提出シ得ス若クハ歸國旅費ノ支拂ヲ拒ム場合ニハ、歸國旅費ノ支拂ヲ要求セシテ該旅行者ヲ乘船セシタル汽船會社ハ自己ノ費用ヲ以テ歸國セシムルモノトス

本則ハ廣州灣ニ赴ク移民外國人ニモ適用ス、印度支那ノ一港ヨリ右地ニ向ヒ乘船スル非移民外國人及ヒ移民ニ要求スヘキ條件ハ總督令ヲ以テ定ム

第三章　印度支那ニ於ケル外國人ノ居住ニ關スル件

第一三條　十五歲以上ノ一切ノ移民ハ其ノ到著後四十八時間内ニ外國人取締廳又ハ地方廳若クハ其ノ支廳署ニ出頭シ身分證明票ノ下付ヲ出願スヘシ右出願ニ對シ受付證ヲ本人ニ交付ス

願書ニハ別ニ半分ノ寫眞四葉ヲ添付シ且身分票三通ノ作製ニ必要ナル左ノ事項ヲ申告スヘシ

姓名、國籍、年齡、出生ノ場所、親子關係、職業、在緒地、居所、身許證明書、家庭境遇、配偶者ノ姓名、年齡及ヒ國籍、子女ノ名、年齡及居所、外國ニ於ケル履歷及ヒ最終ノ住所竝植民地ニ於ケル履歷

移民カ申告ノ眞正ノ證憑トシテ提出シタル書類ニシテ身許關係ニ付不充分ナリト認メラルル時又ハ移民ノ本國ニ於ケル戸籍制度カ其ノ領土ノ全面ニ適用セラレ居ラサル時ハ本條第二項ニ規定シタル身分票ニ添付ノ票券三葉ニ指紋ヲ徵スルモノトス

身分證明票ノ下付出願ヲ受理シタル官憲ハ之ヲ現行法令ニ基キ身分證明票ノ作製發給ヲ爲ス外國人取締廳ニ送達ス

第一四條　住所ヲ變更シタル場合ニハ外國人ハ其ノ出發前外國人取締廳又ハ地方廳若クハ支廳署ニ於テ其ノ身分證明票ニ檢證ヲ受クヘシ又其ノ新居住地ニ到著後四十八時間內ニ同樣ノ手續ヲ履ムコトヲ要ス

身分證明票附屬ノ紙片ハ該檢證ノ記載ニ之ヲ當ツ、檢證ハ外國人取締廳及地方廳若クハ支廳署ニ備ヘ付ノ特別登錄簿ニモ亦之ヲ記載ス

第一五條　身分證明票竝ニ前項特別登錄簿ノ樣式ハ總督令ヲ以テ之ヲ定ム

該票ハ何時ニテモ官憲ノ請求ニ應シ之ヲ提示スヘシ

身分證明票ハ外國人滯在ニ關スル現行法規ノ遵守ヲ怠ルカ又ハ所要ノ保證ヲ嚥缺スルニ至リタル時ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

身分證明票ノ下付ヲ拒否セラレ又ハ沒收セラレタル場合ハ外國人ハ八日ノ期間內ニ印度支那ノ領土ヲ退去スヘシ、但シ該期間ハ情狀ニ依リ地方長官ノ上申ニ基キ總督ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

第一六條　非移民外國人ノ交通ハ自由トス、但シ總督ハ單獨若クハ總括的警察手續ニ依リ外國移民ノ往來ヲ規律シ且ツ移民非移民ヲ問ハス一切ノ外國人ニ對シ一定ノ地域又ハ場所ニ近接シ若クハ滯在スルコトヲ禁止シ又ハ同地ヨリ退去ヲ命スルコトヲ得

外國移民ニ對シ發給セラルル身分證明票ニハ事宜ニ依リ該制限ヲ記載スヘシ

第一七條　土地、家屋所有者、旅館主ハ其ノ土地又ハ建物內ニ移民外國人竝非移民外國人ヲ宿泊居住セシメタルトキハ二十四時間內ニ其ノ旨ヲ外國人取締廳、地方廳又ハ支廳署ニ屆出ツヘシ

素人下宿ヲ經營スル者及一般ニ外國人ヲ宿泊セシムル者ニシテ旅宿業ヲ本業トセサル場合ニ於テモ亦前項ニ同シ、何人ト雖モ本令ニ規定セラレタル身分證明票ヲ携帶セサル外國人ヲ雇傭スルコトヲ得ス

第一八條　地方長官ハ其ノ管轄區域內ニ於テ移民若クハ非移民タルヲ問ハス外國人カ死亡シタルトキハ之ヲ外國人取締廳ニ通知スヘシ、地方取締廳ハ之ヲ總督府內中央部ニ報告ス

第一九條　身分證明票ハ一期二箇年間有效トス、但シ期間ノ開始年度ヲ全年トシテ右期間ヲ計算ス

期間經過後ノ身分證明票ハ效力ナキモノトス

更新ノ出願ハ身分證明票有效ノ最終期年滿了後最初ノ三箇月內ニ第一三條ニ揭ケタル官廳ニ之ヲ提出スヘシ、該期間經過後ニ在リテハ更新セサル身分證明票ノ名義人ハ不正規ノ狀態ニアル者ト看做ス

第二〇條　身分證明票ヲ喪失シタルトキハ第一三條ニ規定スル樣式ニ依リ副本ナル旨ヲ記載ス

第二一條　身分證明票（正本若クハ副本）ヲ交付シ又ハ之ヲ更新スル場合ニハ身分證明票ノ名義人ノ居住スル該州豫算ノ收益ノ爲料金ヲ徵收ス、該料金ハ植民地財政制度ニ關スル一九一二年一二月三〇日附大統領令第七四條B項ニ規定スル條件ニ基キテ定メラルルモノトス

身分證明票ハ前項ノ料金ノ支拂ニ對スル領收書ヲ本人ヨリ提出スルニ非サレハ之ヲ下付セス該料金ノ支拂ハ特別印章ヲ以テ身分證明票第一頁ニ載錄ス

後見人ヲ有スル數人ノ未成年ノ子女カ數個ノ家族ニ屬シ右身分證明票料金ノ支拂カ實際ニ於テ其ノ父母ノ負擔トナル場合ニハ之ヲ免除スルコトヲ得

第二二條　如何ナル外國人ト雖モ其ノ業務地ノ市町村役場、地方廳又ハ支廳署ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ印度支那ニ於テ商業、工業又ハ自由職業ニ從事スルコトヲ得ス、若シ本店所在地ヲ變更シタル場合ハ其ノ新舊兩所在地ニ於ケル前記官署ニ屆出ヲ爲スヘシ、各屆出ハ之ヲ市町村役場又ハ地方官廳ニ備付ノ特別登錄簿ニ登錄ス、前項ノ登錄又ハ變更ハ之ヲ地方外國人取締廳ニ通達ス

第二三條　如何ナル外國人ト雖モ印度支那ニ於テ左ノ職業ニ從事スルコトヲ得ス

通關代理人

船舶運送業及海上運送代理業

通信業及請願巡査

移民取扱業

周旋業

旅館業及遊戲飲食店（但シ植民地ニ五ケ年滯在シ、一九一九年一月二九日附印度支那ニ於ケル飲料品販賣規則ニ關スル大統領令ノ規定ニ從ヘル外國人ヲ除ク）

武器彈藥商

「ラヂオ」電氣器具竝ニ附屬品製造又ハ販賣業

印刷業

本條ノ規定ハ外國人カ敎育施設ヲ開設シ得ルノ條件ヲ定メタル現行法令ニ抵觸スルコトナシ

第二四條ノ規定ニ基キ佛蘭西人ノ名稱又ハ之ト類似若クハ同樣名稱ノ使用ヲ認メラレサル會社ハ第二二條竝ニ第二三條ノ規定ニ依リ外國人ニ課セラルル義務竝ニ制限ニ從フ

第二四條　佛蘭西ノ國籍ヲ有スル工業家及商人竝ニ佛蘭西人ノ屬有ニ係ル事業ノ經營ヲ爲ス者ニ限リ佛蘭西人ノ名稱又ハ一切ノ他ノ類似若クハ同樣ノ名稱ノ執レタリトモ之ヲ公然使用スルコトヲ得會社ノ重役會々長、專務取締役、支配人、代表社員、會計檢査役竝ニ合名會社ニ在リテハ社員、業務執行社員若クハ役員會ノ過半數カ佛蘭西ノ國籍ヲ有スル場合ニ限リ佛蘭西會社ノ名稱又ハ一切ノ他ノ類似若クハ同樣ノ名稱ヲ使用スルコトヲ得

第四章　罰則

第二五條　佛蘭西人、佛蘭西領民又ハ佛蘭西保護領民ニシテ本令第二條ニ規定シタル義務ヲ免レンカ爲虚僞、不完全又ハ不正確ノ申告ヲ爲シタル者ハ五〇〇法以上一、〇〇〇法以下ノ罰金及ヒ六箇月以上一箇年以下ノ禁錮ヲ併科シ又ハ其ノ一ニ處ス

外國人ニシテ第一一條ニ規定シタル義務ヲ免レンカ爲第八條所定ノ申告ニ付虚僞、不完全又ハ不正確ノ手段ニ出テタルトキ亦前項ニ同シ

第二六條　印度支那ニ入國ヲ拒否セラレタル者ニシテ本令ノ規定ニ準セス欺罔又ハ其ノ他ノ手段ニヨリ入國シタル者ハ一〇〇法以上五〇〇法ノ罰金及二箇月以上六箇月以下ノ禁錮ヲ併科シ又ハ其ノ一ニ處ス

前項ノ者ノ印度支那入國ニ關シ之ヲ幇助シタル者、故意ニ其ノ入國ヲ容易ナラシメタル者竝ニ第三三條ノ規定ニ違反シタル者亦同シ過失ニ依リ右入國ノ容易ナラシメタル者ハ一法以上十五法以下ノ罰金及一日以上五日以下ノ禁錮ヲ併科シ又ハ其ノ一ニ處ス

本條第一項ノ刑罰ハ現行法令ノ定ムル衞生規定ニ違反シタル旅行者ニモ適用ス

第二七條　第一三條、第一四條、第一五條、第二二條、第二三條、第二四條ノ規定又ハ第一六條所定ノ禁止ニ違反シタル外國人ハ一〇〇法以上五〇〇法以下ノ罰金及二箇月以上六箇月以下ノ禁錮ヲ併科シ又ハ其ノ一ニ處ス

會社法ノ規定ニ依ル責任アル會社代表者ニシテ本令第二四條第二項ノ規定ニ違反シ佛蘭西人ノ名稱又ハ一切ノ他ノ類似若ク ハ同樣ノ名稱ヲ不當ニ使用シタル者亦同シ

第二八條　外國人ヲ宿泊セシメタル旅宿業者又ハ個人ニシテ第一七條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五〇法以上二〇〇法以下ノ罰金ニ處ス

第二九條　身分證明票ヲ僞造、抹消、改竄、變造若ク ハ貸與シタル者又ハ僞造、抹消、改竄、變造若ク ハ貸與セラレタル身分證明票ヲ使用シタル者、假名ニ依ル身分證明票ノ下付ヲ受ケル爲共助シタル者又ハ自己以外ノ名義者ニ對シ下付セラレタル身分證明票ヲ使用シタル者ハ刑法第一五三條及第一五四條第一項、第二項ヲ適用ス

第三〇條　本令ニ揭ケタル一切ノ違反ニハ刑法第四六三條ヲ適用ス、本令ニ定メタル刑罰ハ外國人ニ關スル限リ一八七四年五月二九日附法律ニ因ル總督ノ追放權ヲ妨ケス

第五章　附則竝一般規定

第三一條　佛蘭西人職員及軍人ヲ除キ印度支那ニ到著スル一切ノ旅行者ハ附屬樣式（第五號）ニヨル申告用紙ニ必要事項ノ記入ヲ爲スヘシ

船舶ニヨリ到著スル場合ニハ用紙ハ船舶關係官廳ヨリ之ヲ本人ニ交付シ其ノ上陸前記入スルコトヲ要ス

其ノ他ノ通路（陸路又ハ空路）ニヨリ到著スル場合ハ之ニ關シ總督ノ指定シタル官署ニ於テ之ヲ履行スヘシ

第三二條　雇主及使用人間ノ關係ヲ規定セル第四條ノ規定ヲ留保シ凡テ本令ニ從ヒテ他人ノ臨時歸國費ノ支拂ヲ保證シタル者ハ其ノ保證ヲ撤回シ使用人ニ對スル全部ノ義務ヨリ解除セラルルコトヲ得、此ノ場合ニハ或ハ保證金ヲ支拂ヒタルコト、或ハ地方長官ニヨリテ許可セラレタル新保證義務ヲ第三者ニ負ハシメタルコト

或ハ又自ラノ取計ヒニヨリ又ハ書留便ニテ使用人ニ通知シテ歸國旅費ヲ交付シタルコト等ノ證明書類ヲ提出スルコトヲ要ス、使用人ノ歸國ニ對シテハ右ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シテ一箇月間ノ猶豫ヲ與フルモノトス、使用人ニ於テ歸國ヲ拒絶スル場合ニハ職權ヲ以テ（必要アレバ追放ノ處分ニ依リ）歸國セシムルモ、如何ナル場合ニ於テモ此ノ歸國ハ保證人ノ費用ヨリ或ハ上記期限ノ滿了後或ハ如何ナル原因タルヲ問ハス、追放命令ノ本人又ハ保證人ヘノ通知後成ルヘク速カニ行ハルルモノトス

追放ノ場合ヲ除キ前記ノ期間內ニ使用人カ規定ノ寄託金ヲ支拂フカ又ハ地方長官ニヨリテ許可セラレタル新保證ヲ提出スル時ハ此ノ限リニアラス

第三三條　雇主カ名義ノ如何及期間ノ幾何タルヲ問ハス、第三者ニ依リテ既ニ歸國旅費支拂ノ保證セラレ居タル代理人ヲ雇傭スルトキハ雇主ハ當然其ノ代理人ノ歸國旅費保證人トナルモノトス、若シ其ノ個人的保證カ地方長官ニ依リ許可セラレサリシ時ハ直チニ規定ノ保證金ヲ支拂フコトヲ要ス

初ノ保證カ第三二條規定ノ條件ニ於テ解除セラルルハ新雇主ノ保證ノ確認セラレタル後、又ハ新雇主カ其ノ使用人ノ爲ニ規定ノ保證金ヲ支拂ヒタル後トス

雇主カ此等ノ義務ヲ履行セサル時ハ租稅法ニ依リ强制セラレ又第二六條第二、第三項ノ刑罰ヲ受クルモノトス

第三四條　港內碇泊中ノ船舶乘組員カ上陸セントスル時ハ船長ノ署名アル身許證明書ヲ携帶スルコトヲ要ス

第三十五條　本令ノ規定ハ印度支那總督ノ取計ヒニヨリ印度支那ニ於ケル外國ノ領事、領事館員、及汽船會社

代表者ニ對シ通告セラルヘシ

第三六條　本令ハ印度支那ニ於テ公布ノ日ヨリ三ケ月後ニ施行ス個人マタハ會社ニシテ本令公布前ニ第二十四條ノ規定ニ違反シ佛蘭西人ノ名稱マタハ一切ノ他ノ類似若クハ同樣ノ名稱ヲ用ヒタルモノハ本令ノ規定ニ從據スルタメ公布ノ後一箇年ヲ猶豫ス

第三七條　一九二九年六月三〇日附大統領令第二三條ニヨリ本令第二三條ニ擧ケタル職業ニ對シテ與ヘラレタル許可ハ總督ニヨリ取消サレサル限リ有效トス

第三八條　外國人ヲ以テ編制セラレタル佛國軍隊ニ勤務スル外國軍人ハ本令ノ適用上第一條ニ規定セル佛國軍人ニ準ス

第三九條　本令ノ規定ハ印度支那土着民ニ對シテモ亦現行印度地方法規ノ規定ニ基キ協會ヲ組織スルコトヲ許可セラレ居ル外國人ニ對シテモ適用セラルルコトナシ、但シ外交條約ニヨリ留保アル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第四〇條　本令ノ規定ニ牴觸スル規定特ニ一九二九年六月三〇日ノ規定ハ之ヲ廢止ス

第四一條　本令適用上ノ細則ハ印度支那總督令ヲ以テ定ム

（南洋年鑑第三回版による）

各種企業に對する外國人參加の能不能

本領土に於ける外國人の企業は佛本國の鎖國主義的方針と從來本領の內情が廣く知られてゐなかつた關係とを以て支那人を除いては極く小數である。以下外國人企業家に必要と思はれる事項に關して簡單に記述する。

外國人の土地所有權問題——本問題に就ては交趾支那以外には適確に記述し得ないが、交趾支那に於ては純然たる佛國の植民地であるため本國法が適用されてゐる。即ち外國人に對し土地所有權を認め、私有地の買收或は貸金の抵當流等により取得した場合之を登記すれば、自己の所有地とすることが出來る規定となつてゐる。實際に於ても、支那人印度人の如きは各地に幾百陌の土地を所有してゐる者が居る。

其他の保護國に於て河內、海防、ツーラン、プノンペン諸市を除き、地方に於ては大體外國人の土地所有は許されてゐるものと認められる。但し保護國には自體の法律があり、土地を所有せ

んとする場合は當然當該保護國の法律を適用せらるゝ筈であるが、その法律たるや有名無實のもので、實際は何等の效力を生じない。從つて止むなく統治を委任されてゐる佛國官廳で登記を行はねばならないことになり、その間頗るデリケートな關係があり、現在も尙法律上多くの疑義が存してゐる。

官有地租借問題——外國人に對して嚴重な制限が加へられてゐる。本件に就いては唯會社組織を以てのみ參加可能であるが、この場合も尙甚しき制限を受ける。又外國人には佛國人その他有權者の租借土地の轉賣も不可能とされてゐる。

而して租借可能の者に對する規定は租借、一千陌以下は交趾支那植民地長官令又は各保護領理事官長令、一千乃至四千陌迄は總督令、四千陌以上は植民地土地租借委員會の決議に依り總督の承認を經て總督府會議の承認を經たる上植民大臣の申請に依り大統領令を以て許可されるものである。

鑛業企業——外國人の參加は嚴しく制限され、產業中最も進出困難のものである。會社組織のものに於ても社長及び取締役其他重役の最少限四分の三が佛國人、同籍民或は保護領民たることを要し之とても容易には著手し得ない實情にある。從つて外國人の參加は投資以外には非常に困

難であるといふことになる。

水産業及び商業――水産業は漁區の漁獵許可を得れば自由である。商業も比較的容易に營み得られる。

以上印度支那に於て外國人が各種企業に參加せんとする場合、餘程事情に通曉せぬ限り外國人企業として發展せしむる事は困難である。故に出來得る限り事業の範圍に從ひ當領地方實業家と提携して事に當る可きである

（南洋年鑑第三回版による）

佛領印度支那の對外貿易額（一九三八――一九三九）

輸出統計

仕向國別輸出額（單位―數量瓲・價額千法）

國名	一九三九年		一九三八年	
	數量	價額	數量	價額
佛本國	九、五九九、〇〇〇	一、一二六、七六〇	一三、二三一、七四六	一、三五〇、二八〇
米國	四三二、一三四	四一八、一五六	二九四、七七七	二四九、三一三
新嘉坡	一、七三一、六五五	三五七、七四七	一、四〇〇、三一九	二七七、二三二
香港	六、五二六、三三九	三〇八、二一六	五、六五五、九五七	二七四、二三七
英領印度	三、七六七、八二四	二六二、一六三	六四、七四七	五、二三九
支那	六、六九二、九八六	一七〇、九八三	四、九四五、二七一	七五、七〇四
（內雲南）	五二一、八三四	四〇、〇五四	四八五、六一一	一六、一四八
日本	九、五五三、八一六	一六一、八八六	九、一五六、八六九	八七、六〇一

英國	二、六五一、六五一	一三一、〇四三	四二一、四三二	五九、四六六
比律賓	一、〇一八、七八六	七五、八〇八	四〇六、六二三	二〇、〇五四
佛領西阿	七五〇、七八九	五一、四七九	三二二、三八六	三一、三四四
和蘭	三四〇、二九六	四七、三一〇	一五五、〇七二	三二、〇五三
レユニオン	四六〇、五九〇	四三、四五八	二一一、一一二	二四、二三八
蘭領印度	五六〇、一〇六	三七、七〇二	四・四、九六七	二八、一七〇
玖瑪	四一三、九九六	三七、六五三	八二、二一〇	八、八一七
錫蘭	三一七、一九三	二八、一五六	九七、二九五	九、七八七
マダガスカル	六八、五八八	二四、七四〇	四四、七〇八	一九、九一八
白耳義	四一、三〇八	一八、五六二	一三四、九四九	四〇、五四七
獨逸	一五三、一三八	一八、四二三	二一一、八〇二	三七、八八〇
西班牙	一九六、一一七	一八、三三九	—	—
其ノ他ノ亞弗利加洲諸國	一四七、一〇七	一五、〇八三	一〇四、〇二一	一一、〇四七
タイ	三五四、三一五	一四、〇八七	二六四、七一八	一四、六七六
「オセアニア」地方ニ於ケル其他ノ島嶼	一一七、二八一	一一、〇九九	五一、一九九	五、四〇三
丁抹	一八、五八〇	一〇、六二八	八、六二四	一、三三九

阿弗利加地方ニ於ケル其他ノ佛領地域	九八、六五二	九、六六四	九六、三三五	九、九四九
アルヂエリア	三七、九二四	九、三八一	二九三、七五九	三六、〇〇六
南阿聯邦	九六、〇二二	九、一四九	二八、二一三	二、七八四
チュニス	六二、〇六七	七、五八五	二九七、〇六七	二八、七一五
ニューカレドニア	一〇五、四七八	六、四八五	六七、八五一	四、九七九
廣州灣	七五、四六〇	五、五四二	二三、一二三	二、四二一
其ノ他ノ亞細亞洲諸國	一二二、一〇五	五、四七五	一一一、二三五	三、九八七
「グアデループ」及「マルチニーク」	三七、五七九	三、五〇〇	一四、一三一	一、五一三
加奈陀	三一八、四七五	三、四四二	二五二、二八二	一、五七八
印度地方ニ於ケル其他ノ佛領地域	四〇、三〇二	二、九九三	一、二一一	四五九
モロッコ	一六、八五三	二、七九三	五、二九二	一、〇一三
諾威	二一、三一二	二、五四五	〇	〇
濠洲	一二、四三二	一、五八二	五五、五七〇	六、〇三三
ニューヘブリデス	一七、五四八	一、五五四	八、四一〇	九二五
シリア	七、二八二	一、四三四	七、六九五	一、三〇三
其ノ他ノ亞米利加洲諸國	一七〇、三一五	一、三六四	三一〇	八〇

瑞典	一、〇八〇	一、二八九	二、六五二	二、七〇五
伊太利	八、三六三	七九五	四六、六一〇	二、五八三
ルーマニア	二、〇八〇	四一二	五〇八	五二三
瑞西	四〇、六〇〇	四一〇	一五	五
土耳古	一、五三一	一七二	一、八一七	二九三
ユーゴスラブイア	一六二	一六六	—	—
波蘭	一八二	一四三	二	一二
葡萄牙	一九一	一四三	—	—
「オセアニア」地方ニ於ケル他ノ佛領地域	五七一	八九	五	二五
其他ノ歐洲諸國	四七	四三	二	〇
チェッコスロヴァキア	四六	一二	二四、一七二	二、九七二
亞米利加地方ニ於ケル其他ノ佛領地域	〇	四	〇	二
亞爾然丁	一	一	—	—
ブルガリア	—	—	三四〇	二五五
芬蘭	—	—	一一五	七八
エストニア	—	—	一二	三

ソヴィエト聯邦	—	—	〇	〇
希臘	〇	〇	〇	〇
埃地利	—	—	〇	〇
匈牙利	—	—	〇	〇
愛蘭	—	—	—	—
リトアニア	—	—	—	—
伯剌西爾	—	—	—	—
船用品	六一〇、〇〇九	一〇、四〇四	四四二、八五五	六、七六九
指圖式	一五七、八八八	一六、六七三	四八四、八二一	六一、五二二
總計	四六、九三一、一五二	三、四九四、七二五	三九、九四七、二一四	二、八四三、八三七
佛領植民地計	一、七三四、六八三	一七〇、七〇一	一、三九三、〇八五	一六二、八一〇
外國計	三五、五九七、四六九	二、一九七、二六四	二五、三二二、三八三	一、三三〇、七四七

△右表中印ヲ附セルハ一九三八年一月一日以後始メテ獨立計算ノ對象トナリタル統計地域ヲ示ス

仕向國別、品名別主要品輸出額（單位…數量百瓩價額千法）

品名竝ニ仕向國名	一九三九年		一九三八年	
	數量	價額	數量	價額
○生鳥獸		一五七		六〇五一
（イ）牛（去勢牛）	六四九			
內				
タイ	二三九		六一	
香港	二〇九		四三七	
新嘉坡	—		三、五五七	
（ロ）水牛（去勢仔牛）	六、一九〇		一九、二一六	
內				
香港	四、四八一		一六、七七三	
タイ	一、七〇九		一、四四六	
（ハ）同上（去勢セサルモノ）	三二、一七一		六八、八九三	
內				
香港	二八、〇一九		四二、九〇八	
タイ	—		二五、一〇六	
（ニ）豚	二、〇二三		一六、五二一	
內				
香港	一、一四三		三九四	
タイ	七〇〇		五六	
新嘉坡	—		—	
（ホ）家禽	五、八七一		三、〇六七	
內			八一九	
香港	五、〇〇五		一二、五七九	
新嘉坡	二一〇		五、二六三	
○皮革羽毛製品等				
一、獸皮（生又ハ乾燥セルモノ）				
1、大動物皮（革）				
（イ）半皮	四、四三九		四、九九四	
內				
香港	三、一五八		四二、四二一	
タイ	—		一、六一二	
新嘉坡	五〇一		四、九〇五	
內				
香港	三九四		九六四	
タイ	五六		一七五	
新嘉坡	—		三、五七二	
內			一、九六〇	
香港	一、六九四		一、八三六	
新嘉坡	七八		一〇四	
○皮革羽毛製品等				
一、獸皮（生又ハ乾燥セルモノ）				
1、大動物皮（革）				
（イ）半皮	二、七三三		四、二三三	
內				

佛本國	一、五九七	一、七四六	一、四六四	一、六五五
香港	一、八四五	四九一	一、八四六	一、四五四
新嘉坡	六〇九	二七〇	四八四	三五三
シリア	一七三	八三	—	—
廣州灣	九七	六七	二八	四〇
タイ	七一	二七	二二七	九五
日本	四〇	四〇	七三	五六
和蘭	七	九	一七〇	一〇六
(ロ)水牛皮	一四、六〇一	七、九六九	一五、四〇二	八、三六二
內				
英國	七、八〇二	三、七五二	七、一〇一	三、六二三
佛本國	二、一五六	一、六七九	二、七七九	一、九四〇
香港	二、二〇四	七四二	一、四〇六	四六二
シリア	九三七	六四九	六一七	三八八
土耳古	一三〇	六九	三〇六	二〇八
白耳義	一一	六二	一三七	八八

(ハ)其ノ他ノ皮革	一、四〇四	七五二	九六五	七一三
內				
米國	九〇九	四三一	二七九	一九九
香港	二二九	一八〇	三〇三	二六六
タイ	一三三	六八	三〇三	一八二
2、小動物皮革				
豚革	一、四三四	三二三	一、四一八	三二四
內				
香港	一、四二八	二七六	一、四一〇	三二二
3、羽毛製品				
羽蒲團	八、四二五	六、一七二	五、六六一	三、七三四
內				
香港	八、四二五	六、一七二	五、六六一	三、七三四
4、魚鳥卵				
(イ)魚卵	四九、九三一	二二、八九一	五四、九四九	一五、九六六
內				

新嘉坡	三六、六七七	一七、〇四〇	三九、六八二	一一、六二五
香港	一一、四六六	五、七六九	一五、一九二	四、二八六
(ロ)鹽漬又ハ罐詰魚鳥卵	三八、二三三	一一、八五二	二〇、四五八	五、一三三
內				
新嘉坡	一九、六四一	六、六八九	一〇、八八七	三、三〇八
香港	一七、九六三	五、一五七	八、五六三	二、〇八一
○水產物				
一、魚類（乾物、鹽漬又ハ燻製）				
別掲セサル魚類	三三四、〇四五	七六、七五八	三二〇、九五五	七〇、七一九
內				
新嘉坡	二四四、八五六	六〇、〇九六	二二二、四三五	五四、〇四六
香港	五一、一八四	一二、九一八	四八、一七七	一一、八六二
タイ	三二、四〇五	三、〇八一	四九、二一七	四、六四〇
支那	四、六七九	五三八	九八七	一四八
二、蝦	一三、九四七	六、三八一	一三、三三五	六、九五五
內				

香港	九、一〇六	四、〇七六	九、一九三	四、七二二
新嘉坡	四、三二九	二、一五五	三、八五六	二、一五三
三、魚油	一四、四〇六	一、六四四	九、五二八	一、〇三四
內				
佛本國	一二、一八九	一、四〇八	六、九四五	七三四
○穀物				
玉蜀黍（正味）	四、四九六、七二〇	三四四、八一二	五、五六六、〇五〇	五一一、四一三
日本	九六六、九九〇	六八、七五七	一四一、一一三	一二、二六四
指圖式	六七、七四三	四、九五八	一二〇、八九〇	一一、六〇四
チュニス	六、〇〇〇	五二〇	一〇六、四〇九	九、九二四
二、マニホット	一四、八九〇	一、六五九	八三、七〇〇	九、三一九
內				
佛本國	一四、八九〇	一、六五九	八二、七〇五	九、一〇四
三、米				
(イ)籾（正味）	三、二六六、四四七	一九五、四三〇	三八〇、二九四	二七、二五〇
內				

英領印度	二、八七五、三七五	一七一、八二六	一三、六六四	八三四
佛本國	一九八、三三五	一二、〇四七	三〇一、三〇八	二二、〇九六
和蘭	八四、四七三	五、一三八	四六、八四八	三、一五六
香港	二六、三九二	一、五九四	九、一一三	五七四
(ロ)「カーゴ」米(三三%以下ノ籾ヲ混入セルモノ)	九一四、七七四	六六、二五一	六九九、一六〇	六二、八二九
內				
佛本國	四〇五、八一五	三〇、三六二	三七九、三七三	三五、六二二
獨逸	一二九、九九六	九、九〇六	一六二、〇二七	一五、六二七
香港	一四四、五八二	九、二九一	一四二、八八二	一〇、一七七
和蘭	一〇二、六〇七	七、四四一	一、五〇一	一二九
(ハ)「カテイエ」米(蒸ササルモノ)(正味)	九、四九七、五九一	九〇三、三七七	六、七六〇、五五一	七一六、四三二
內				
佛本國	二、九二七、八六八	二七四、八三一	三、三三六、二九三	三四八、四六三
香港	一、八五五、六八〇	一六八、七四六	一、四六二、五一九	一四七、六九三
比律賓	七七一、三一五	七二、八七三	一四六、九二九	一七、〇九五
英領印度	六六四、三八三	七二、〇四四	六、六九九	六九五

支那	七一一、六四八	七一、五三一	一四三、六三六	一三、九四五
レユニオン	四一九、二九三	四一、二一三	一九五、九九六	二一、〇二四
蘭印	三三九、七一八	三二、〇八九	二五五、五〇四	二五、二九七
「オセアニア」地方ニ於ケル其他ノ佛領地域	一一四、〇四五	一〇、八一三	五一、一〇九	五、三九八
「グアデループ」及「マルチニーク」	四一三、〇九四	三七、五二六	八二、〇〇〇	八、六〇五
新嘉坡	三〇三、九二六	二八、〇九五	二一一、〇九七	二三、一八二
日本	七七、一五四	九、四五九	二、〇〇一	二一六
(ニ)同上(蒸シタルモノ)(正味)	二〇四、一四二	一九、八五三	三五、三三一	三、七八一
(ホ)碎米(蒸ササルモノ)(正味)	二、一一六、三五六	一六三、五三二	一、七六九、〇七六	一五六、九六〇
內				
佛本國	八四四、〇八三	六六、八一六	一、〇四〇、四八四	七〇、五四五
英國	一九一、六六八	一四、二四五	七六、一〇五	六、二九五
新嘉坡	八、六九八	一、五五六	—	—
○果物及種子	一四六、一九七	二五、五八七	一五七、一九七	二六、九二八
內				

	香港	印度	佛國	佛國	佛國	佛國	佛國
	一、一一九三	一、四八七	一、四七五	一、一一五	一三、一四五	一三、一四五	一三、一四五
一、調味料、嗜好品							
白砂糖（ザラメ）粉糖粗糖							
	一、四八七	一、四六九	四、五二四	五、四七一	一二、一一五	一二、一一五	一二、一一五
佛領西阿	一、四三六	五三、六二七	三八、八六四	二八、四五八	二七、三六三	二七、三六三	二七、三六三
佛支那本國	一、一一九三	一二五、〇四二	一〇、三七五	四〇、六〇〇	三、八三五	三、八三五	三、八三五
佛國本土	一、一一九三	一四、四六七	四、四七二	五、〇二二	一、〇二七	一、〇二七	一、〇二七
佛英國領印度	一、四三六	九二、三三三	三七、四三八	一〇〇、一三八	五二、五六四	五二、五六四	五二、五六四
佛英國本土	一、四三六	五六、〇〇九七	二二、四九六	三〇三、九二二	一六、二三七	一六、二三七	一六、二三七
佛蘭西本國	一、四三六	一七六、六一六	七、四〇〇	四七七、九〇九	一四、八六一	一四、八六一	一四、八六一
佛屬印度	一、一一九三	二三、三六七	三、三九二	四二、七八四	七、六六七	七、六六七	七、六六七
佛屬印度	一、一一九三	一一、二四三	一、二四八	一〇、四八七	一、四七五	一、四七五	一、四七五

	皮港	佛國本國	佛國本國	佛國本國	佛國本國	佛國本國	佛國本國
二、珈琲	七、三三四	七、五五八	四、一六六	三、七五〇			
三、胡椒							
佛國本國	七、二一五	七、三〇九	四、一三〇	三、七一七			
佛國本國	三一、九八七	一一、九五三	四四、二四三	一二、六四三			
佛國本國	一六、八三九	六、五八九	一六、四九七	四、三五四			
アルヂエリア	三、八二四	一、五三二	二、四三一	六四三			
ロッコ	三、〇六五	一、〇六一	三、一一五	七七二			
（ロ）白胡椒	二二、八八一	七、四八四	一〇、九六五	四、四六一			
佛國本國	二二、二三四	七、〇八一	九、〇八六	三、六八四			
四、茗荷及白荳蔻	五、〇六〇	二、四七九	五、〇四三	一、九一一			
佛國本國	四、六六六	二、二九〇	四、一三六	一、五九六			
〇樹香	一五、〇七七	一〇、三四八	九、八九三	六、三四六			

内				
香港	一四、八九〇	一〇、二四四	—	—
○茶				
(イ)黒茶	二〇、七四八	二二、五七四	一七、〇二一	一九、三〇七
内				
佛本國	九、三二四	一一、二四七	九、三五二	一一、〇二三
其ノ他ノ阿弗利加地方	一、七七二	一、六八六	七二七	八三八
チュニス	一、四〇九	一、六六二	一、三八八	一、三一五
アルジエリア	一、二八九	一、五三九	二、二〇三	二、一四六
新嘉坡	二、〇五一	一、二〇六	九	八
(ロ)綠茶	三、七二一	四、〇六七	二、六八三	二、三一五
内				
アルジエリア	一、八九三	二、〇五〇	一、三九六	一、三八六
佛本國	九七〇	一、〇二八	七八三	五三六
○紙卷煙草	一、八六九	二、八〇八	一、六〇九	二、二三九
内				

レユニオン	四六九	七五一	三一九	五〇七
支那	四〇一	四九二	三四五	三八七
タイ	二四九	三二九	五六一	七一二
○植物油等				
一、植物油				
(イ)蓖麻子油	一〇、六八八	四、七一三	八、一四六	三、八四二
内				
佛本國	八、三五五	三、七六四	七、一五三	三、五一三
(ロ)大茴香(ウイキョウ)油	二、二二四	一〇、〇四八	二、五一三	一一、五二四
内				
佛本國	一、一四二	五、四〇七	一、四五二	七、二九七
二、樹脂				
(イ)松脂及其他ノ松柏樹脂	四、三四一	五三〇	九、八六八	七二七
内				
日本	四、一一三	四九七	九、八四八	七二四
支那	二七六	二三	—	—

(ロ)格魯穀(コロハン)	二、七七七	五四五	二、五六三	四五七
內 香港	一、九六二	四〇七	一、六八四	二七三
支那	八一四	一三七	七二三	一六〇
三、別揭セサル漆類	一五、八一一	一〇、八九二	一七、〇五三	一二、五六五
內 日本	一二、六五四	八、九四二	一二、九三九	九、八九二
香港	二、五〇七	一、五〇三	二、八七六	一、七四四
四、護謨	六八八、七九七	九五五、六九三	五八〇、二三一	六二〇、七二九
內 米國	二九三、八三〇	四〇五、二三三	二〇九、三八一	二三三、七〇六
佛本國	二三一、八三〇	三三〇、九〇二	一七二、八一九	一七八、五九〇
新嘉坡	九二、六三七	一六六、〇六七	一〇四、六七二	一一一、二八二
白耳義	一〇、一四一	一三、六二四	二七、七三七	二八、六七七
英國	八、六七二	一〇、九三七	二五、五六八	二七、五九三
丁抹	六、九八〇	九、二一一	二〇四	三五七

獨逸	四、六六二	五、六九〇	一七、七六一	一七、三三〇
支那	四、一七四	五、二四五	一、五七四	二、〇〇八
日本	二、八五七	三、五五〇	一一、九八六	一二、四九二
瑞典	一、〇一六	一、二六八	一、〇一六	八八六
香港	三四五	四五七	二、七五〇	二、七一七
〇木材				
(イ)一般木材	三八七、〇四八	一七、〇〇〇	二六八、一一八	一一、一六〇
內 香港	二七八、五二二	九、五二四	一八四、八一〇	六、一六〇
其ノ他ノ亞弗利加地方	七六、五五三	五、二四〇	六三、一七八	三、三二八
佛本國	一二、三六八	九六六	六、一七一	六三三
支那	一一、五八七	六〇二	五、六七七	二四八
アルジエリア	三、一七七	四一九	三、〇四一	三三三
新嘉坡	一、二六七	五三	三六九	六
タイ	一、一四五	二八	五八三	七
(ロ)「チーク」材角材	一三一、五七四	一〇、七九八	一一〇、一五一	八、〇六六

內				
錫蘭	二六、七七一	一、九五九	九、五四九	七一九
其ノ他ノ亞弗利加地方	一八、一三五	一、七六七	七、九九四	六五五
南阿聯邦	一八、〇八四	一、五五三	一四、一五五	一、一四八
英領印度	二二、六六九	一、三八一	四一、七四〇	二、八〇〇
香港	一五、八六七	一、二五二	九、四四四	五〇一
新嘉坡	一三、七四〇	一、一六八	一六、六三三	一、一六五
佛本國	五、一〇八	六八六	三、〇〇〇	三三三
日本	—	—	七二	一〇
(ハ)其ノ他	六、四四五	五六四	一一、一六八	五五四
內				
香港	三、三七五	一九七	三、四一一	二〇〇
佛本國	五九三	一〇六	一六九	八
廣州灣	六二六	一〇六	—	—
○纖維製品				
一、綿				

(イ)實綿	一、〇五一	二二六	二、六八六	四七七
內				
支那	二〇六	八一	二七六	一四〇
(內雲南)	二〇六	八一	一七〇	八九
日本	四一〇	七〇	一、二〇八	一八八
タイ	三五四	四二	一、一七三	一一九
(ロ)繰綿	一、一四五	七〇八	三〇四	一五六
內				
支那	一、〇四六	六三九	一一八	五八
(內雲南)	七三四	四二四	一〇七	五〇
タイ	九六	六九	一三九	九二
(ハ)其他	一〇六	九四	一七〇	一七二
內				
支那	二一	二六	二二	二五
カポック(種子)	二九、九八〇	一九、六四七	五七、六八一	二一、八六一
內				

英國	一五、四六七	八、七六一	六、三〇八	一六、五四六
香港	五、〇七八	二、九九六	二、七六七	一、五〇五
丁抹	四、四〇四	二、八四七	一、一七一	七九二
佛本國	二、六二九	二、〇六九	八八二	四三三
白耳義	一、七一三	一、一二〇	二、七二四	一、六四三
〇タンニン染料				
クナウ	一六、六九六	一、〇三五	二〇、一五二	一、二四六
內				
香港	一五、五一四	九六八	一八、七一二	一、一五七
〇殘滓物製品				
油粕	三九、五四七	二、五三八	四二、一三六	三、一九七
內				
佛本國	二六、六四八	一、八〇五	三四、二五四	二、五五五
〇飲料				
「ラム」酒	二、三二五	一、二八二	八、七九七	三、六三〇
內				

佛本國	二、〇五八	一、一七四	八、四〇七	三、四七四
〇土石及礦物燃料				
一、セメント	一、五六八、八六七	三六、五六四	一、四四五、七五六	二五、二七八
內				
支那	三六三、八七四	一四、五〇七	一三八、八五二	五、四三三
新嘉坡	五五〇、二二九	九、七〇〇	五四一、四六四	七、五八〇
香港	二九一、九七一	五、二九〇	五〇八、〇〇七	七、〇七九
蘭印	一七五、六八〇	二、八九五	一五四、三一八	二、一七三
マダガスカル	四五、八四五	一、二一六	二〇、一一一	四三〇
二、硅砂				
(イ)硝子及陶磁器製造用	七〇九、二四一	八〇〇	七八九、三七二	八八七
內				
日本	五二五、五六〇	五七四	六八〇、五六〇	七二九
支那	一七四、六一六	二一七	五一、六一七	四三
(ロ)其他	一、〇五三	六三	一、九九一	六六
內				

英國	五〇四	三三	六一八	二四
香港	一〇三	七	一、〇〇六	一〇
三、石炭				
(イ)下等品	一七、七八五、三三〇	一五一、八八〇	一五、七三〇、一五六	一三、八五七
內				
日本	六、七三二、九三〇	五一、一〇五	六、七三〇、四六三	四一、七二六
支那	五、〇七三、四四三	四〇、五〇二	四、四〇三、九三二	三四、一六五
佛本國	一、七〇六、一〇五	一九、九二八	一、九二七、六三一	二二、三一四
香港	一、八八三、八九四	一四、九八七	一、三四八、五八四	一〇、四八二
(ロ)上等及中等品	三四、三〇〇	四〇一	・四九、九二四	六一一
內				
支那	三四、二〇〇	四〇〇	四四、〇〇四	五二七
(ハ)コークス	四、九六七	二一四	八、四二三	二二二
內				
香港	三、三〇〇	一四六	七、三八〇	一八八
支那	一、三二五	四四	一、〇三一	三三

(ニ)塊炭	八八、九三三	一、六二八	一九、一一四	二九四
內				
支那	五〇、〇三三	七〇二	四、七〇二	四三
○金屬製品及鑛物				
一、金屬製品				
(イ)鐵棒	一五、〇七一	三、二七二	一一、五〇九	二、二五七
內				
支那	一三、六八一	二、八五二	一〇、一二六	二、〇五八
(ロ)錫(塊・棒・板)	一九、二六五	五一、七三〇	二三、一七八	三三、一四二
內				
英國	六、七〇〇	一九、〇七〇	五一二	七二〇
佛本國	四、六八二	一三、〇三九、	八、四二八	一二、二八〇
和蘭	四、九四七	一二、四六〇	三、三五〇	四、四二〇
香港	一、五四五	二、七〇〇	三、三六六	四、七五〇
米國	六一三	一、七九二	三、五五七	五、一三九
(ハ)亞鉛(塊・棒・板)	三九、七六四	五、六八四	四五、六〇四	四、五六〇

內				
佛本國	三九、七五〇	五、六八一	四五、六〇四	四、五六〇
(ニ)滿俺鑛	二八、六六〇	七六八	四、八〇六	七九
內				
日本	二七、五〇〇	七六一	四、八〇六	七九
(ホ)鑛(タングステンウォルフラム)	四、六〇八	一一、三一七	四、九二一	一二、〇二四
內				
佛本國	三、五三二	八、七三七	二、七七〇	六、六九〇
○化學製品				
海鹽(加工セサルモノ)	四四二、〇五八	三、九八一	六八四、五四〇	四、〇八七
內				
日本	四四一、九五〇	三、九七六	六五二、三九一	三、八八四
○合成品				
石鹼	六、七一〇	一、九四七	三、二六四	八八八
內				
マダガスカル	三、一九二	一、〇七四	一、八二八	四九六

レユニオン	二、〇三九	五三八	六九〇	一八三
○木製家具、細工品	八二、九四六	一四、三五六	七九、五〇五	一〇、五〇〇
內				
米國	一六、七四一	四、五六一	一二、四九五	二、九三七
佛本國	二九、八三七	四、四三四	四一、八四九	三、六一七
新嘉坡	一〇、七二〇	三、一四四	六、四八〇	一、五〇六
英國	四、六一五	三一四	二、五七三	一四四
獨逸	一、七五七	三〇七	一、二五九	一九七
支那	三、三四二	二六四	二、三五三	二四九
香港	一、七〇九	一七五	一五、九〇三	一六五
日本	一、九〇〇	一〇八	九六一	一六二
英領印度	三、〇六三	八六	三五	八
○「スパルト」編製品				
一、筵	三二、六〇五	八、一三〇	四三、四六七	八、七二一
內				
佛本國	一〇、七六三	二、九四三	二二、一七四	四、七四三

香港	九、一一五	一、九一九	八、六九二	一、五四二	
白耳義	四、〇九七	一、二三六	二、九五六	七六四	
和蘭	三、八二九	九一八	五、〇三四	一、〇七四	
タイ	一、三〇二	二三八	一、九五九	三一五	
二、籠內	三、四〇四	三、四一〇	三、二六七	二、〇九三	
佛本國	二、五六九	二、〇〇〇	三、〇九八	一、六一一	

輸入統計

仕出國別輸入額（單位＝數量瓩、價額千法）

國名	一九三九年 數量	一九三九年 價額	一九三八年 數量	一九三八年 價額
佛本國	一、八八九、五一〇	一、三三三、六五四	一、二四二、九六五	一、〇一七、九二八
香港	三五六、九六二	一六六、五一五	四五五、七三七	一四三、四二九
英領印度	二三三、八三六	一二〇、三一四	一五四、七〇五	五五、四二九
支那	二五四、二五五	一〇六、二五七	三〇一、六〇九	一四二、九八六
（內雲南）	四一、〇一五	四一、六八六	四一、一五八	七二、三八六
蘭領印度	一、〇八三、八七四	一〇四、五二〇	八九七、一八一	八四、五五七
新嘉坡	二一四、二四八	一〇〇、五一〇	一五八、九〇九	五七、七八八
附米國	二八五、五〇三	二六、一〇九八	二六一、〇九八	九七、八六三
英國	一〇〇、一六一	六七、三五四	五六、〇一六	六二、四五三
錄アルジエリア	八四、八八九	四三、五三八	九一、七一九	三九、四七〇

タイ	四四四、二七一	四一、二九〇	四〇四、〇七六	三六、〇二二
日本	二六二、六四〇	四〇、一二〇	四一七、八五〇	五五、五二五
白耳義	一〇四、一二一	二八、二六九	九八、六一九	二三、一一九
印度地方ニ於ケル其他ノ佛領地域	一六、八六八	二六、〇六四	一九、〇四〇	三二、五四〇
和蘭	三〇、二九四	一八、五四二	二一、三〇〇	一八、二五四
瑞西	一五、四八八	一七、二一七	一五、七四〇	一五、四九四
香港	二五六、九六二	一六、五一五	四五五、七三七	一四三、四二九
其他ノ阿弗利加洲諸國	一〇六、一三一	一六、三八〇	九三、三九六	一〇、四五九
獨逸	一四、六二四	一五、七三一	八、三四五	一六、五九五
チェッコスロヴァキア	六、九三八	五、九二五	八、九四一	八、六〇八
チュニス	一二一、四五八	四、六三四	八九、三九〇	三、二五九
ソヴィエト聯邦	一三二、五五九	三、四六四	一三	一七
伊太利	六、一一五	二、七一五	三、八〇八	一、四九一
丁抹	四〇、三四七	二、七一二	一、三八三	一、一一七
比律賓	一〇、一五三	二、四九九	三、三一三	一、八五六
瑞典	一、六九四	二、四〇八	六五五	一、六四一

阿弗利加地方ニ於ケル其他ノ佛領地域	二、〇三二	二、二八六	一、五八二	一、一六七
濠洲	一四、一五四	二、一五四	四六、六五七	七、三八九
ユーゴースラヴィア	一七、二七一	一、九〇一	六、二一九	七一二
「オセアニア」地方ニ於ケル其他ノ島嶼	三一九	六〇九	二〇〇	四三〇
錫蘭	一、三三九	六〇四	二、一八七	一、〇七三
芬蘭	二、三二九	五〇七	四、四〇一	一、三二八
葡萄牙	二七二	三五九	二八〇	三五二
亜爾然丁	七七〇	三三六	一、四八三	六四六
モロッコ	六一二	四四三	四三四	三一四
南阿聯邦	四、八三七	四一一	三、一七〇	二二六
レユニオン	一〇、九二九	四〇二	二二	一二
加奈陀	一二一	二六〇	六二七	五五八
其他ノ亜米利加洲諸國	二九四	二四七	六六	一〇二
諾威	二五五	二三五	七五	一一一
其他ノ亜細亜洲諸國	一、四三四	二二一	四九六	二九
エストニア	一、〇〇四	二〇六	六、六九三	一、六二九

匈牙利	一五一	一七八	一、六四九	七一三							
埃地利	五七三	一七四	五、六八八	一、四五〇							
シリア	四三	一三五	五三	三七〇							
波蘭	六〇	一二六	四四	六六							
廣州灣	二〇八	九九	二八三	三三							
マダガスカル	三八	六〇	四五	五五							
亞米利加地方ニ於ケル其他ノ佛領地域	四三	五六	六	五							
愛蘭	四四	四八	一五四	二三二							
希臘	一四七	四二	一一三	三三							
其他ノ歐洲諸國	五	一〇	—	—							
西班牙	二	六	一	一							
伯剌西爾	一	四	—	—							
ニューカレドニア	四	三	二〇六	二一五							
ブルガリア	五	一	一	一							
ルーマニア	—	—	一〇六	四							
土耳古	—	—	—	—							

ニューヘブリデス	—	—	—	—							
「オセアニア」地方ニ於ケル其ノ他ノ佛領地域	—	—	—	—							
「グアデループ」及「マルチニーク」	—	—	—	—							
リトアニア	—	—	—	—							
玖瑪	—	—	—	—							
漂流物	一四六	一三九	五八一	一七一							
總計	五、八七六、〇七一	二、三八二、二六一	四、八九九、四三四	一、九四七、二五六							
佛領植民地計	二三七、一二四	七七、七二〇	二〇二、七八四	七七、三九一							
外國計	三、七四九、四三七	九七〇、八八七	三、四五三、六八五	八五一、九三七							

△右表中×印ヲ附セルハ一九三八年一月一日以後始メテ獨立計算ノ對象トナリタル統計地域ヲ示ス

印度支那ニ於ケル綿、絹、人絹製品輸入統計（數量百瓩、價額千法）

	一九三九年 數量	一九三九年 價額	一九三八年 數量	一九三八年 價額
一、綿絲				
（イ）單絲				
合計	一六、六八七	二六、一五二	一五、九七〇	二五、六六六
內				
佛國及佛領印度	一五、三五八	二三、九七五	一四、七五一	二四、二七一
タイ	九五四	一、三一〇	一、一四〇	一、三〇一
（ロ）撚絲				
合計	一、六四六	四、一五〇	一、四一七	三、四八二
內				
佛國	八二四	二、四六六	七九五	二、二五五
（ハ）小賣用燃糸				
合計	一、五六九	八、二六六	一、六五二	八、九〇三

	一九三九年 數量	一九三九年 價額	一九三八年 數量	一九三八年 價額
內				
佛國	一、四六六	七、四一九	一、五三六	七、八九五
英國	九二	八一五	九〇	九三四
總計	一九、九〇二	三八、五六八	一九、〇三九	三八、〇五一
二、生絲				
合計	八、〇四〇	五七、五二五	七、〇五一	四四、一四八
內				
香港	七、一〇七	四九、八〇九	五、二〇六	三〇、六四五
支那	六〇九	四、五一六	八〇〇	四、三三三
日本	二二九	二、六三八	八五九	七、二〇〇
佛國	九四	四六九	一八九	一、九七九
三、人絹絲				
合計	四、四九一	一二、五五九	二、八三八	八、一四九
內				
佛國	四、四六九	一二、四八六	二、八一〇	八、〇六二
四、綿織物				

(イ) 粗布				
合計	一七、三五七	三七、一六二	二〇、九二六	四七、四四七
内 佛國	一四、二一〇	三一、三五八	一六、三四〇	三八、六〇四
佛領印度	二、八九五	五、二四七	四二七	八、一三六
タイ	一五八	二四八	一九〇	二二二
(ロ) 晒布	三〇、二二五	八六、五七二	二八、一二九	八一、六九三
内 佛國	二九、八八九	八五、九二四	二七、七二七	八〇、九八一
タイ	三一八	五五八	三五六	五五〇
(ハ) 漂白綿布				
合計	七一五	一、八八八	七六	二四一
内 佛國	七一三	一、七七五	六五	一八一
(ニ) 繃帶用布				
合計	三、〇四三	八、一三六	四五一	一、二八〇

内 佛國	三、〇四三	八、一三五	四五〇	一、二七八
(ホ) 染色布				
合計	三五、七一二	一二五、六六一	二一、七六五	八一、五一六
内 佛國	三三、六〇二	一二一、三三三	七九、六三三	七六、八四三
佛領印度	八二九	一、八七〇	一、一三四	二、七六〇
タイ	一、〇五一	一、七八七	八九七	一、四八九
(ヘ) 絲染布				
合計	二、三〇三	七、二二四	二、四六一	七、六六〇
内 佛國	二、〇六五	六、六九九	二、〇九七	六、八九一
タイ	二〇六	四三三	二四〇	四二二
(ト) 捺染布				
合計	二、七八一	一一、二九三	一、六九三	六、四一五
内				

佛國	二、五三〇	一〇、五六七	一、四七九	五、八一七
タイ	一六〇	三三一	一一三	二〇六
新嘉坡	六八	三六八	九一	三四三
綿織物總計				
○特殊綿布	一、七九九	三、七二三	九〇七	三、〇六〇
○綿「ブランケット」	四九〇	九一二	四〇四	六八四
○綿メリヤス	一六六	一、一〇九	二四二	一、三九七
○漁網				
合計	一、〇六九	四、三三一	三、二一九	一二、三四九
內				
支那	九〇一	三、六七六	二、〇〇五	七、七七六
香港	一六四	六四七	五九七	二、一八一

五、毛織物

○洋服地				
合計	一、五一八	一一、八五五	九一八	六、六九〇
內				

佛國	一、四七二	一一、二二五	八七九	六、二二八
英國	三九	六二三	一五	二八三
○毛「メリヤス」				
合計	九〇	六六七	二一	二一九
○「フェヅ」「ベレー」				
合計	二八六	一、六七〇	二一六	一、三〇二
內				
佛國	二八六	一、六七〇	二一五	一、三〇一
○毛「ブランケット」				
合計	二五〇	八一四	三五七	九六〇
內				
佛國	二二七	七六八	三五四	九四八

六、絹織物

（イ）東洋特産絹布

合計	二八	二五八	三四	三〇九
支那	二四	一六九	一七	一六八

香港	一	二	四	三五
日本	一	一	八	九一
(ロ)「クレープ」				
合計	一二三	九二七	一八	三二八
内				
佛國	一一四	七五七	五	八九
支那	一	四九	三	五六
日本	七	一一四	八	一五三
(ハ)天鵞絨				
合計	七	二五一	一〇	一五七
内				
佛國	七	二四八	一〇	一五七
(ニ)薄目織	五	一七八	一	二四
内				
佛國	二	一〇八	〇	一
日本	二	六七	一	一九

(ホ)薄織物(「フーラール」等)				
合計	三七六	四、四六八	三一四	四、三〇二
内				
佛國	一九八	一、六五九	四四	四七七
日本	六五	八六八	一九四	二、六七二
支那	九五	一、七三四	六三	九七一
絹織物總計	五三九	七、〇八二	三七七	五、一二〇
七、人絹織物				
(イ)「クレープ」				
合計	二、三二八	一九、四三一	一、九五〇	一四、八六六
内				
佛國	二、二八四	一九、〇三三	一、九三四	一四、六三一
(ロ)天鵞絨				
合計	一〇三	一、五二一	八二	一、四八六
内				
佛國	八五	一、二三六	七七	一、三九六

(ハ) 薄目織				
合計	一九	一七二	二〇	九九
(ニ)「リボン」類				
合計	四三	三九六	一二	一一〇
(ホ)「メリヤス」				
合計	六八四	三、七八九	九八三	五、五七八
內				
佛國	六八〇	三、七七〇	九八〇	五、五五九
(ヘ) 密織物(「フーラール」等)				
合計	三、六五一	四二、五〇五	八、四三三	六四、五九七
佛國	五、三九一	三八、八九三	八、二三九	六二、二二三
支那	二一五	三、三九四	一三三	一、九〇二
人絹織物總計	八、八二八	六七、八一四	一一、四八〇	八六、七三六
絹人絹ト他ノ纖維トノ交織物				
(イ) 密織物				
合計	六六七	三、四二四	一、三九九	七、〇七六

內				
佛國	六四一	三、二二六	一、三七〇	六、八六二
八、既製衣類、下着、「ネクタイ」等附屬品				
合計	六、四九九	二〇、五八二	五、七二七	一五、四七二
內				
佛國	五、九二〇	一九、三六一	四、一二七	一三、二九六
新嘉坡	二〇三	三三八	二一一	二八九
香港	一九六	二三〇	一、〇五一	一、〇三一

佛印重要商品輸入統計（金額ハ佛印貿易月表一九三九年十二月發行統計ニ據ル括弧内數量ハ右金額ヲ本邦輸出單價ニ依リ算出ス）

品名	國名	單位	一九三九年	一九三八年
綿織物	佛本國	平方碼圓	二五、五一五、六一九（一一七、五六八、〇九五）	一八、四九六、二四九（九二、四八一、二四五）
	日本	平方碼圓	二、三四〇（一、三四〇）	九八四（四、九七五）
	佛領印度	平方碼圓	六四二、〇七三（三、二一〇、五六五）	九七、六四四（四八八、二二〇）
絹織物	佛本國	平方碼圓	九一、五、七〇五（七六一、四二〇）	七二五、五七六（六〇四、六四六）
	日本	平方碼圓	四〇、五六四（三五、六三六）	一六二、三五五（一五五、二九四）
人造絹織物	佛本國	平方碼圓	五、六八七、一八八（一八、九五七、二九五）	七、五四五、五〇七（二五、一四五、〇二五）
	日本	平方碼圓	二、九五三（九、八四五）	九、四八七（三一、六二三）
陶磁器	佛本國		七九七、四九〇圓	四五二、〇七〇圓
	日本		一七二、三五〇圓	一七二、六二〇圓
硝子製品	佛本國		一、八二一、一五〇圓	一、三一一、〇五〇圓
	日本		九四、三二〇圓	九六、五七〇圓

旅行案内

印度支那の旅行者に對する注意としては、他の南洋諸地方の旅行者に對すると殆んど同一であるが、概して激暑の地（特に南部地方に於て）であるから、熱帶衞生に關し周到なる注意を要する。睡眠は充分に取り何事にもあれ身體の無理は絶對に避けねばならない。使用語は全く佛語で他國語は殆ど通用しない。入國に際しては、從來入國料又は見せ金等は不必要で非常に容易であつたが、現在は一九二九年一一月一八日より實施された入國及び居住規則の適用により極めて煩雜且つ困難となつた。

遊覽主要地　東京——河內市・海防市・南定市・アロン灣
安南——順化・ツーラン市・フエイフオ（往昔邦人發展の遺蹟）・ダラ避暑地
交趾支那——西貢市・堤岸市・サンジヤック址
柬埔寨——プノンペン市・アンコール廢址

右の内、各都市に就ては後述主要都市の項を參照せられ度い。

アロン灣——鴻基の前面に横たはる幅五〇粁餘の灣で、無數の奇岩怪石起伏し、大小とりどりの鐘乳洞が無數にあり恰も規模を更に大にせし本邦松島に似て、島影を縫ひ行く興趣は盡きることを知らない。海防旅行者は必ず見物すべき勝景で、日一回の海防——鴻基汽船便にて先づ鴻基を訪れ翌朝本灣の見物を爲すを順當とする。

フエイフオ——ツーランより東南三二粁の地點に所在す。カンナム州廳所在地で往時は最も繁榮せる商港、商業都市であつた。本地には數百年前數百人の邦人居住し、日本橋なる橋を境として支那人と商權を爭ひ、彼等よりも優勢の地位にあつたといふ記錄が殘つて居るが、現在は唯一名の邦人も居住せず僅かにて苔蒸したる墓石に依りその跡を偲ぶのみである。日本橋は現在尙Pond japonais の名で保存されてゐる。多恨の遊士は往昔遙々雄圖を抱き渡航し、異境に骨を埋めた是等邦人の遺蹟を弔ふ可きである。

聖ジャック岬——交趾支那バリア州に在り、避暑地として著名で海水浴場の設備を有し、夏期は大いに賑ふ。又西貢入港船舶は必ずこの地に寄港する。

アンコール廢墟——東洋に於ける二大佛蹟として爪哇のブルブドルと比較され共に旅行者を誘つ

てゐるが、その規模結構の廣大さは到底ブルブドルの及ぶ所ではない。紀元九世紀末に建設されたクメール王朝全盛期時代の首府の遺蹟で、Angkor-Wat, Angkor-thom, Bayon, Takéo, Ta-prom, Bentéai, Kadey, Sras-sreng, Pré-rey, Mebon, Ta-som, Neak-pean, Prah-khan 等の廢址がある。而して從來は交通不便の爲に河川航路船の便に依つて訪れるの外無かつたが、近年は西貢より直行する貸切自動車があり、最少日數三日を以て往復し得るが、普通は五日を要する。參考の爲旅行日程を掲ぐれば、貸切自動車によつて當日アンコールに到着することも出來るが、コンポントンにて一泊、第二日目的地に到着、滯在三日にして西貢に歸着するを普通とする。距離は西貢より四九七粁である。西貢より郵便自動車を利用する場合はプノンペンにて一泊、翌日アンコールに到着する。自動車の貸切賃は三人乘にて二二五比弗であるが、郵便自動車の場合は遙かに安價（二二、四〇比弗）に行き得られ、且途中プノンペンにて東埔寨政府經營の博物館に於てクメールの遺物、美術品等を見學し得る利がある。因にコンポントンにはホテル・コンポントン、アンコールにはグランド・ホテル、バンガーロ、又シエムレアプにはニュー・シエムレアプ・ホテル等があり、宿泊料は食事附一泊七——一〇比弗程度である。

汽船による場合は、一週二回西貢發の Messageries fluviales de Cochinchine 會社の遊覽船に

依るを最も便利とする。而して之に二種あり、往航はアンコールまで共に三日（プノンペン滞在日數一日を含む）を要し、アンコール滯在は四日半或は六日とし、歸路は共に二日にて西貢に達す。

右遊覽旅費は一八〇比弗乃至二〇〇比弗程度である。因に旅費の中には往復汽船費・宿泊料及び案内人雇傭代を含んでゐる。

雲南府旅行——普通には片道三日を要する。即ち第一日河內（或は海防）——老開間、第二日老開——開遠間、第三日開遠——雲南府間で歸路も同行程を辿る。但し週一回の急行列車を利用する場合は二十三時間にて達し得られる。尙貨幣は印度支那比弗を以て大體通ずる。

（南洋年鑑第三回版による）

主要都市

現在印度支那に於て自治制を實施する都市は、西貢、河內、海防、堤岸、プノンペン、ツーラン、南定、ダラト及びハイジョンの九市である。右の中西貢、河內、海防の三は一級都市として大統領令に依り、その他は二級都市として總督令を以て夫々特別市制を實施して居る。以下順次之等主要都市に就て概略を記す。

西貢——ドナイ河の一支流たる西貢河の右岸に所在する交趾支那の首府で、人口約十五萬（內歐人約八千）を有し、當領南部の政治、商業、海陸兩交通、學術等の中心地をなし、又交趾支那、柬埔寨師團の所在地である。市街は文化都市として各種の設備が完備し、街衢も亦廣濶、整然とし高雅な都市を形成してゐる。主要建築物としては總督及び交趾支那知事官邸、市立劇場、教會堂、郵便電信局、市廳、裁判所、海軍造船所等があり、其他植物園、動物園、公園等も設けられてゐる。而して港市としてはドナイ河口より六五粁の地點に在り、大航路線より稍離れ

てゐるといふ不利はあるが、尙當領第一の商港として著名であり港内たる河幅は左程に廣からず水流も亦稍々急ではあるが、優に二萬噸級の大船舶を自由に出入せしめ得る。岸壁には中型級以上の船舶二十餘隻を碇泊せしめ、河中には二十餘箇所の繫船設備を設けてゐるなど河岸港市としては支那の上海に優るとも劣らない好條件を附與されてゐる。

商港として輸出品の太宗は所謂西貢米で、白米の外、籾、カーゴー米等、一九三六年の輸出高は一、七一一、七七五噸、前年一七一八、〇一三噸で、其の他の主要輸出品として獸皮、水産物、玉蜀黍、古々椰子果實、コプラ、胡椒、馬錢子、護謨、チーク材等がある。輸入品の主要なるものは、小麥粉、果實、砂糖(精製糖)、煙草類、石炭、石油及び鑛油、鐵及び金屬製品、綿糸、綿布、酒類等である。

堤岸——西貢の西方約五粁に在る支那人街で堤岸州廳所在す。人口約一九萬(内支那人約一〇萬人)で、事實上交趾支那に於ける唯一の工業都市であり且米穀、奥地行物資の集散地をなしてゐる。市内には大規模なる數十箇所の精米所を始め、土酒釀造工場、麥酒及び製氷會社、其他各種の小規模工場が經營され市場は極めて繁盛である。而して西貢とは運河或は電車を以て連絡し、米・籾其他の農産主要物資は迅速に西貢に運搬されてゐる。

プノンペン——湄公河及び大湖の合流點に所在する柬埔寨の首都であり又柬埔寨王の居住地である。人口約八萬二千を有す。市内諸所に聳立する寺院の勝景と壯麗なる柬埔寨王宮、博物館、古代劇場等は特に地方色を濃厚ならしめ、其の他の主要建築物としては柬埔寨政廳、市廳等がある。尙當市は著名なアンコール廢墟へ巡禮する人々の準備地たる位置にある。

當市は又河川商港として相當に繁榮し、老樹、大湖及び附近地方の出入口に當つてゐる。現在は湄公河下流に淺瀨があり千五百噸以上の船舶の出入は困難であるが、港内には約四十二萬噸の船舶を收容することが出來る。

ツーラン——ソンハン河に面し、同名の灣に沿ふ安南第一の商港である。人口約六、五千を有する。市内にチャム博物館が在り、附近に軍港がある。近接地方の農産物の集散地で之を輸移出してゐる。

順化——市制を布かれてゐないが、海岸より十二粁、同名の川に臨む安南王國の首府であると共に安南理事廳の所在地であり、人口約八萬を有してゐる。而してその建築、風俗等に於て未だ舊觀を存し、旅行者に好奇の目を見張らしむる。市は河を挾んで佛人市街及び土人市街に區別せられ、土人市街には王城が在り又商業地帶として相當繁榮してゐる。外にカイデイン博物館

があり、陳列品中には先住民族の遺跡の外古昔邦人の安南渡航圖繪などがある。

河內——紅河の右岸に位し、海防の西方一〇二粁、海岸より一六〇粁の奥地に在り、東京の首府で印度支那總督府その他總ての中央、地方行政機關及び東京、安南師團の所在地である。人口約十三萬（中歐人六千）を有し、街衢井然とし西貢と共に當領の文化都市として代表的のものである。政治、學術、陸上交通、商工業等の中心地であり、總督及び理事官長官邸、劇場、郵便電信局、その他總督府所屬各官衙等あり、學術方面では極東佛蘭西學院、河內大學、各種學校圖書館及び博物館等、商業方面には印度支那銀行を初め佛支商工銀行、香港上海銀行、農商博物館及びその他各種の產業會社がある。

海防——海を距ること約五五粁の地點にあり、人口約十三萬を算する東京第一の商港で西貢港に亞ぎ繁盛を極めてゐる。首府河內とは鐵道、國道及び河川に依つて連絡され、又雲南鐵道の起點をなし、貿易の發達に伴ひ絶えず擴張されてゐる。而して當地方の海陸兩交通の中心たるは勿論商業も亦殷賑を極め、特に印度支那の工業地としても著名である。工業會社としてはセメント會社（日當生產量八百噸）を初め、紡績會社、炭礦會社その他著名會社が所在してゐる。本港の主要輸入品は小麥粉、煙草類、棉花、葡萄酒、石油、罐詰類、麻袋、綿布帛類、輸出品

は玉蜀黍、米、珈琲、茶、蓖麻子油、漆、セメント、石炭、毛皮等である。

南定——河內より東南方八七粁の地點にあり、南定州廳の所在地で人口約四萬を有する。附近地方の商工業の中心地で特に米の大市場があり、又土人技藝美術の中心地を爲し、當領第一の紡績會社たる佛安紡績會社が所在し又市より產出する鐫具家具は殊に有名である。

ハイジョン——河內及び海防の中間に位し、前者より五七粁の地點にある人口約一萬の地方中心市である。ハイジョン州廳の所在地で河內海防間鐵道及び同河川航路の中央點に位するを以て交通の便よく、商業は相當に發達してゐる。

ダラト——南部安南ランビアン高原中の最高所に所在する市街で、空氣清澄、冷氣迫り絶好の避暑地であり、比較的遠距離にある西貢よりも年々相當の避暑客が訪れ夏季は大いに賑はつてゐる。トウルチヤムに於てニヤチヤン鐵路より分岐するダラ登山鐵道に依つて到達する。ホテルその他近代市街としての各種設備は完全し印度支那總督も夏季は多く此地に於て執務する。

（南洋年鑑第三回版による）

昭和十五年十二月十五日印刷
昭和十五年十二月十九日第一刷發行

版權所有

著者　東京市日本橋區通二丁目二番地　田澤丈夫
エンパイヤ・ビル
發行者　羽田書店　伊藤竹男
印刷者　東京市京橋區銀座西一丁目七番地　福神和三

機印郵情

定價　壹圓六拾錢

發行所　東京市日本橋區通二丁目二番地　羽田書店
エンパイヤ・ビル
電話日本橋(24)二八七〇番
振替口座東京七八二六六番

福神製本印刷所印刷

904
137

羽田書店刊行

蘭印事情

小笠原長丕著

四六判三五四頁
寫眞地圖二十數
定價一・八〇〇
送料一〇

近衛公爵推薦の辭

蘭印諸島は我國の大東亞經濟圏の確立上最も重要な意義を有する所である。近時我が國民も漸く蘭印の重要性を認識して來た樣であるが、未だその如何なる所なりやは分明ならざる人が多いであらう。本書は舊友小笠原長丕君最近の視察研究の收穫であるが、蘭印一般の事情を知悉する上に裨益する所多きを思ひ、敢て廣く世に推薦する次第である。

公爵　近衛文麿

目次概要

蘭印の一般事情
位置、地勢、人口、人種、氣候、衞生、宗教、風俗、習慣、曆、教育、統治、行政、陸海軍、司法制度、土地制度、貨幣制度
蘭印の經濟事情
資源、鑛業、工業、農產業、米作、土人農作物、砂糖產業、林畜漁、貿易
南洋の華僑について
東亞共榮圏と南洋
南洋資源、南洋の重要鑛產物、英領馬來の經濟事情、蘭印の經濟的特徵、東印度ゴムとその將來、最近邦人の企業概要、東南洋經濟圏としての蘭印
南洋の風物

¥1.60